

《論 文》

# 東アジア域内貿易の展開と中国

河 合 和 男

はじめに

## I. 東アジア域内貿易の展開

- (1) 東アジア域内貿易の特徴
- (2) 東アジア各国・地域からみた域内貿易比率

## II. 中国の貿易構造と東アジア

- (1) 中国全体の趨勢
  - (2) 中国の国・地域別貿易構成
- (補論) 中国に関わる貿易統計上の乖離問題
- (1) 貿易統計上の2種類の乖離
  - (2) 香港を中継港とする中国・第三国間貿易

はじめに

今日、東アジア地域は世界経済に占める地位を飛躍的に高めている。累年比較のために利用可能な統計資料の関係から東アジア地域を中国本土（以下、中国と略）、NIEs（新興工業経済群。韓国、台湾、香港、シンガポールの2カ国・2地域を指す）、ASEAN[4]（ASEAN原加盟国のうちNIEsに分類したシンガポールを除くタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアの4カ国を指す）に限定すると、たとえば東アジア地域のGDPは、国連統計によれば、1990年の1兆2,613億米ドルから2010年には7.21倍の9兆0,947億米ドルとなった。これは、世界全体の2.84倍（同期間に22兆2,414億米ドルから63兆0,640億米ドルへ）を大幅に上回っている。その結果、世界のGDPに占める東アジア地域の比重は同期間に5.7%から14.4%へと上昇し

た。またIMFデータによれば、東アジア地域の輸出額も同期間に4,154億米ドルから3兆6,651億米ドルへと8.82倍増となった。これまた世界全体の4.38倍増（同期間に3兆4,501億米ドルから15兆1,005億米ドルへ）を大きく上回り、世界の輸出額に占める東アジア地域の比重も同期間に12.0%から24.3%に上昇しているのである。

なかでも、中国は顕著な伸びを示した。中国は、GDPでは1990年の4,045億米ドルから2010年には5兆7,394億米ドルへと14.19倍増となり、世界に占める比重も1.8%から9.1%に急増した。周知のように、中国はGDPでは2010年に日本を追い抜いて米国に次ぐ世界第2位に躍り出るに至っている。また、輸出額も同期間に621億米ドルから1兆5,783億米ドルへと25.42倍増となり、世界に占める比重も1.8%から一気に10.5%へと上昇している。中国は2009年以降、輸出額で世界トップの地位を維持している<sup>(1)</sup>。

しかも、東アジア地域は1990年代前半まではとくに米国への輸出急増を通じて経済成長していったのに対し、今日では域内貿易の比率を高めつつ経済成長を遂げているのである。

本稿の課題は中国と東アジア域内貿易との関わりを数量的に検討することにある。そこで、この課題を次の2つから接近してみたい。

まず第1に東アジア域内貿易全体の特徴、ならびに中国における東アジア域内貿易の特徴を探ることである。そのために、(ア) 1990年と2007年の世界貿易マトリクスを利用してEUやNAFTA<sup>(2)</sup>における域内貿易の変化と東アジアにおける域内貿易の変化とを比較検討する。また、(イ) 1980年以降の世界貿易マトリクスを用いて東アジア域内貿易比率の変化という観点から中国と他の東アジア諸国・地域とを比較検討する。

第2に2000年と2011年における中国の貿易統計を利用してHS (Harmonized Commodity Description and Coding System、国際統一商品分類) 2ケタ分類に基づく中国の主要輸出入品目構成や貿易黒字・赤字品目構成の変化について、(ア) 中国全体の趨勢を把握すること、ならびに(イ) 中国一

米国・EU間貿易と中国—日本を含む東アジア地域間貿易との異同を検討することである（ただし、ここではHS2ケタ分類にとどまっており、また最終財・中間財・素材といった財別構成の変化の分析には至っていない）。

これらの課題の検討を通じて、中国にとって東アジア域内貿易がもつ意義について考察するためのひとつの準備作業としたい。

## I. 東アジア域内貿易の展開

### (1) 東アジア域内貿易の特徴

ここではEUとNAFTAとの対比を通じて東アジアの域内貿易の特徴をみる。

表1は1990年の世界貿易マトリクスであり、また表2は2007年の世界貿易マトリクスである（2007年はそれまでの分類基準と同じで累年比較が可能な最新の年である）。この2つの表は国際収支統計作成基準と同じく輸出・輸入ともFOB価格（本船渡し価格）で表示されているので、A国の全世界への輸出額は全世界のA国からの輸入額に等しくなる。たとえば、表1の5行6列目の841億米ドルは1990年における日本の東アジアへの輸出額であると同時に、東アジアの日本からの輸入額でもあるということを示している。

#### (ア) 世界貿易に占めるシェア

1990年から2007年にかけてNAFTA、EU、および日本は世界貿易に占めるシェアをいずれも低下させている（NAFTAは同期間に輸出が16.2%から13.3%へ、輸入が19.1%から18.0%へ、EUはそれぞれ44.8%から38.7%へ、44.5%から39.3%へ、日本は同じく8.5%から5.1%へ、6.1%から4.1%へ）。それに対して東アジアは中国、NIEs、ASEAN[4] いずれも輸出入ともに比重を高めている。すなわち、東アジア全体で輸出が同期間に12.4%から21.4%へ、輸入が11.3%から18.1%へと増加した。そのうち中国はそれぞれ1.9%から8.9%へ、1.5%から6.4%へ、またNIEsは8.0%から8.7%へ、7.3%から8.4%へ、

表1 世界貿易マトリクス (1990年)

輸出先 輸入元	世界	NAFTA	米国	EU	日本	東アジア	中国	NIEs
世界	33,816	6,471	4,914	15,036	2,077	3,810	491	2,455
NAFTA	5,467	2,263	1,142	1,184	572	619	62	438
米国	3,931	1,113	—	1,042	486	562	48	406
EU	15,137	1,238	1,052	10,110	311	538	76	323
日本	2,877	1,001	911	596	—	841	61	557
東アジア	4,190	1,023	942	665	605	1,312	229	796
中国	628	59	53	64	92	317	—	299
NIEs	2,699	787	722	455	303	749	211	305
韓国	678	217	194	102	126	68	—	68
台湾	672	236	217	117	83	166	0	120
香港	821	216	198	154	47	294	203	58
シンガポール	528	117	112	82	46	189	8	59
ASEAN[4]	864	177	167	146	210	246	18	192
タイ	231	56	52	54	40	47	3	35
マレーシア	294	53	50	46	45	123	6	99
フィリピン	82	32	31	15	16	14	1	10
インドネシア	257	35	34	31	109	61	8	47

出所) 独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)のサイト(www.jetro.go.jp/index.html)より。ただし、原資注) 貿易マトリクスは輸出ベースで作成。ただし、シンガポールの対インドネシア輸出はインドネシアの輸入を乗じFOBに換算。

表2 世界貿易マトリクス (2007年)

輸出先 輸入元	世界	NAFTA	米国	EU	日本	東アジア	中国	NIEs
世界	137,477	24,736	18,617	54,036	5,572	24,883	8,809	11,586
NAFTA	18,291	9,258	5,211	2,929	739	2,256	770	1,135
米国	11,626	3,850	—	2,478	627	2,023	652	1,050
EU	53,151	4,219	3,567	36,005	597	2,469	984	1,091
日本	7,071	1,634	1,425	1,035	—	3,253	1,102	1,562
東アジア	29,436	4,790	4,478	4,601	2,368	11,877	3,853	5,685
中国	12,197	2,687	2,378	2,461	1,017	3,453	—	2,958
NIEs	12,019	1,629	1,400	1,477	697	6,205	3,245	1,582
韓国	3,602	568	448	494	248	1,559	930	415
台湾	2,467	354	321	270	159	1,371	624	563
香港	2,959	410	364	391	145	1,656	1,402	143
シンガポール	2,992	297	266	322	144	1,618	289	463
ASEAN[4]	5,220	770	700	663	654	2,219	608	1,144
タイ	1,525	215	193	212	181	547	148	244
マレーシア	1,767	301	280	225	160	783	153	470
フィリピン	664	98	89	68	78	389	196	143
インドネシア	1,265	157	138	158	235	500	111	288

出所) 独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)のサイト(www.jetro.go.jp/index.html)より。ただし、原資注) 各国・地域の対台湾輸出は、台湾の輸入統計(CIFベース)の数値に0.9を乗じFOBに換算。

(単位：億米ドル)

韓国	台湾	香港	シンガポール	ASEAN[4]	タイ	マレーシア	フィリピン	インドネシア
592	492	814	556	865	301	254	132	178
157	122	75	84	119	34	36	27	22
144	114	68	80	108	30	34	25	19
83	74	89	77	139	49	35	17	39
175	144	131	107	222	92	55	25	51
81	64	458	192	287	92	106	38	52
4	3	272	20	18	9	4	2	4
43	38	158	66	233	70	93	28	42
—	12	38	18	33	10	7	5	11
12	—	86	22	46	14	11	8	12
19	13	—	26	33	11	6	9	8
12	13	34	—	122	35	69	7	12
33	23	29	106	36	14	10	7	6
4	4	10	17	9	—	6	2	2
14	9	9	68	18	10	—	4	3
2	2	3	2	3	2	1	—	1
14	8	6	19	6	2	3	2	—

料は IMF, *Direction of Trade Statistics*, Sept. 2005、台湾貿易統計。  
データに 0.9 を乗じ FOB に換算、また各国・地域の対台湾輸出は台湾の通関輸入統計(CIF ベース)に 0.9

(単位：億米ドル)

韓国	台湾	香港	シンガポール	ASEAN[4]	タイ	マレーシア	フィリピン	インドネシア
3,237	1,973	4,036	2,340	4,487	1,309	1,484	653	1,041
381	259	219	276	351	93	125	82	52
347	239	201	263	321	84	117	77	42
341	179	288	283	394	109	156	54	75
545	413	390	214	588	255	149	95	89
1,008	609	2,951	1,117	2,338	517	871	320	631
556	252	1,857	294	495	120	173	74	127
254	196	855	278	1,377	255	539	182	400
—	136	162	116	215	49	65	43	58
78	—	380	105	184	52	54	49	29
70	16	—	56	112	31	34	29	18
106	43	313	—	866	124	386	61	295
199	161	240	544	467	142	158	63	104
30	33	87	95	155	—	78	29	48
69	56	82	263	161	86	—	24	51
17	21	52	53	50	20	25	—	5
83	52	19	133	102	37	55	10	—

料は IMF, *Direction of Trade Statistics*, May 2008、台湾貿易統計。

同じくASEAN[4] は2.6%から3.8%へ、2.6%から3.3%へと比率を高めているのである。とりわけ中国の急増振りには目を見張るものがある。この間に東アジア地域で比率を低下させたのは台湾の輸出入（輸出が2.0%から1.8%へ、輸入が1.5%から1.4%へ）と香港の輸出（2.4%から2.2%へ）だけである（なお、冒頭でも述べたように、2010年時点で東アジアおよび中国が世界輸出に占めるシェアはそれぞれ24.3%、10.5%であったから、その後も東アジアは中国を中心にシェアを着実に増加させていることになる）。

#### （イ）域内貿易比率

まずEUでは域内輸出比率は1990年66.8%（表1によれば、EU全輸出額1兆5,137億米ドルのうちEUへの輸出額は1兆0,110億米ドルを占めている）から2007年67.7%（同じく、表2によればEU全輸出額5兆3,151億米ドルのうちEUへの輸出額は3兆6,005億米ドルを占めている）へ、域内輸入比率は同期間に67.2%から66.6%へと推移している。EUでは域内貿易は輸出入とも高水準を維持しているといえる。

次にNAFTAについてみると、域内輸出比率が1990年41.4%から2007年50.6%へ、域内輸入比率が同期間に35.0%から37.4%になった。域内輸出比率は9.2ポイント上昇して2007年には過半を占めるようになったものの、域内輸入比率はわずか2.4ポイントの増加にとどまっている。EUと対比すると、域内輸出比率・輸入比率ともに低水準の状態である。とくにそれは域内輸入比率について当てはまる（なお、NAFTAのうち米国では域内輸出比率は28.3%から33.1%へ、域内輸入比率は23.2%から28.0%へと推移し、NAFTA全体の域内輸出入比率よりもさらに低い）。

他方、東アジアでは同期間に域内輸出比率が31.3%から40.3%へ、域内輸入比率が34.4%から47.7%になった。前者は9.0ポイント増、後者は13.3ポイント増となり、NAFTAを上回る伸びを示した。域内貿易比率という観点からみると、2007年時点で東アジアはNAFTAと肩を並べるまでに至っている。ただし、NAFTAとは逆に、両時期とも域内輸出比率よりも域内輸

入比率のほうが高く、しかも両者の格差は1990年の3.1ポイントから2007年には7.4ポイントへと拡大している。

さらに東アジアに日本を加えれば、同期間に域内輸出比率は39.0%から47.9%へ、域内輸入比率は46.8%から57.5%へと上昇し、優にNAFTAの域内貿易比率を上回ることになる。日本を含む東アジア地域では包括的な自由貿易協定はまだ締結されていないにもかかわらず<sup>(3)</sup>、NAFTAを上回る域内貿易水準をすでに達成しているといえる。

#### (ウ) 域外貿易比率

EUでは域内貿易が中心であり、域外貿易比率は輸出・輸入とも低い。この間に域外輸出比率・輸入比率が上昇したのは東アジアに対してだけである（前者は同期間に3.6%から4.6%へ、後者は4.4%から8.5%へ）。NAFTAや日本に対してはいずれも輸出比率・輸入比率を低下させている。とくに日本に対する輸入比率は4.0%から1.9%へと大きく低下している。

EUでは域内貿易を基本とし、そして域外に対しては輸入先を日本から東アジアにシフトさせつつあることが窺われる。

一方、NAFTAでは域外輸出比率・輸入比率ともに低下しているとはいえ、2007年時点でも前者は49.4%、後者は62.6%とかなりの比重を占めている。この間にEUと日本に対しては輸出比率・輸入比率とも低下させているが、とくに日本に対する輸入比率の落ち込みは大きい（EUに対しては輸出比率が21.7%から16.0%へ、輸入比率が19.1%から17.1%へ、また日本に対してはそれぞれ10.5%から4.0%へ、15.5%から6.6%へと低下している）。それに対して東アジアの比重は輸出が11.3%から12.3%へ、輸入が15.8%から19.4%へと上昇している。とくに輸入比率の上昇率は高い。これは、この間に中国に対する比重が輸出で1.1%から4.2%へ、輸入で0.9%から10.9%に増えたことによる（なお米国では、東アジアの比重は輸出で14.3%から17.4%へ、輸入で19.2%から24.1%へと増加し、そのうち中国の比重はそれぞれ1.2%から5.6%へ、1.1%から12.8%へと増加している）。

NAFTA、とりわけ米国はEUの場合以上に域外での輸入先を日本から東アジア、とりわけ中国に転換させているといえよう。

他方、東アジアではNAFTAの場合以上に域外貿易から域内貿易への転換が進んでいる。とくに、この間にNAFTAや日本に対しては輸出比率・輸入比率とも大幅に低下している（NAFTAに対しては前者が24.4%から16.3%へ、後者が16.2%から9.1%へ、日本に対しては前者が14.4%から8.0%へ、後者が22.1%から13.1%へと低下）。それに対して、EUの場合も低下しているが（輸出比率が15.9%から15.6%へ、輸入比率が14.1%から9.9%へ）、NAFTAや日本に比べて小幅の低下にとどまっている（とくに、それは輸出比率に当てはまる）。

#### （エ）域外貿易収支

EUでは域内輸出比率・輸入比率とも全体の3分の2程度を占めていて、域外貿易収支もこれまではほぼ均衡していたが、近年ではやや赤字傾向にある<sup>(4)</sup>。たとえば、1990年の域外貿易収支は101億米ドルの黒字であったが、2007年は885億米ドルの赤字となった。これは、主に対東アジア、とくに对中国貿易収支の赤字による（2007年にEUは東アジアに対して輸出2,469億米ドル、輸入4,601億米ドルで2,132億ドルの赤字、そのうち中国に対して輸出984億米ドル、輸入2,461億米ドルで1,477億米ドルの赤字であった）。

NAFTAは域外輸入性向が高いため（NAFTAではいずれの時期とも域外輸入比率のほうが域外輸出比率よりも高く、しかも両者の格差は拡大している）、域外貿易収支は恒常的に赤字となっている（1990年が1,004億米ドルの赤字、2007年が6,445億米ドルの赤字）。これは日本や東アジアに対する貿易収支の赤字が原因である。日本との貿易収支は1990年が429億米ドルの赤字、2007年が895億米ドルの赤字であった。また東アジアとの貿易収支は1990年が404億米ドルの赤字、2007年が2,534億米ドルの赤字であったが、1990年は主に対NIEs貿易収支の赤字349億ドルによるものであり、2007年は主に対中国貿易収支の赤字1,917億米ドルと対NIEs貿易収支の赤字494



億米ドルによるものである。なお、NAFTAが巨額の域外貿易収支の赤字を計上しているのは米国に起因している（米国の域外貿易収支は1990年が954億米ドルの赤字、2007年が5,630億米ドルの赤字であった）。さらに米国は域内貿易収支でも赤字が続いている（1990年は29億米ドルの赤字、2007年は1,361億米ドルの赤字）。

他方、東アジアはNAFTAとは逆に、域外に対しては輸出性向が高いため（東アジアでは域外貿易に関しては輸出比率のほうが輸入比率よりも高く、しかも両者の格差は拡大している）、域外貿易収支では恒常的に黒字が続いている（1990年は380億米ドルの黒字、2007年は4,553億米ドルの黒字）。これは、上述のように、NAFTAやEUに対して巨額の貿易黒字を挙げていることによる（なお、日本に対しては1990年には236億米ドルの赤字、2007年には885億米ドルの赤字を計上している）。

このように、東アジアでは域内貿易比率という観点からみると、すでにNAFTA水準に到達し（日本を加えればNAFTA水準を大きく上回る）、そして域外に対しては輸出性向が高く恒常的に貿易収支の黒字を挙げていることが特徴となっている<sup>(5)</sup>。

それでは東アジアを構成する各国・地域は東アジア域内貿易とどのように関わっているのであろうか。次にこの点について検討してみよう。

## （2）東アジア各国・地域からみた域内貿易比率

表3～表6は、表1、表2で利用したジェットロ作成の世界貿易マトリクスを輸出入別に加工し、併せて構成比も挿入したものである。

### （ア）日本と東アジア域内貿易

表3によれば、日本の対東アジア域内貿易比率は、輸出が1990年29.2%から2007年46.0%へ、また輸入が同期間に29.1%から42.5%へと増大している。かつては輸出比率のほうが高い年と輸入比率のほうが高い年があったが、2004年以降は常に輸出比率のほうが高くなっている（たとえば、2011年に

表3 世界貿易マトリクスからみた日本の貿易相手先

(単位：億米ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
輸出相手先							
合計	1,304 [7.1]	1,772 [9.5]	2,877 [8.5]	4,430 [8.7]	4,782 [7.5]	5,949 [5.7]	7,071 [5.1]
米国	319 (24.5)	667 (37.6)	911 (31.7)	1,220 (27.5)	1,440 (30.1)	1,360 (22.9)	1,425 (20.1)
E U	203 (15.6)	235 (13.3)	596 (20.7)	714 (16.1)	805 (16.8)	868 (14.6)	1,035 (14.6)
東アジア	332 (25.5)	426 (24.0)	841 (29.2)	1,848 (41.7)	1,892 (39.6)	2,763 (46.4)	3,253 (46.0)
中国	51 (3.9)	126 (7.1)	61 (2.1)	219 (5.0)	304 (6.3)	800 (13.4)	1,102 (15.6)
NIEs	189 (14.5)	226 (12.8)	557 (19.4)	1,093 (24.7)	1,134 (23.7)	1,426 (24.0)	1,562 (22.1)
韓国	54 (4.1)	72 (4.0)	175 (6.1)	313 (7.1)	307 (6.4)	467 (7.8)	545 (7.7)
台湾	48 (3.7)	50 (2.8)	144 (5.0)	272 (6.1)	347 (7.3)	414 (7.0)	413 (5.8)
香港	48 (3.7)	66 (3.7)	131 (4.6)	278 (6.3)	272 (5.7)	360 (6.1)	390 (5.5)
シンガポール	39 (3.0)	39 (2.2)	107 (3.7)	230 (5.2)	208 (4.4)	185 (3.1)	214 (3.0)
ASEAN[4]	92 (7.0)	74 (4.2)	222 (7.7)	536 (12.1)	454 (9.5)	537 (9.0)	588 (8.3)
タイ	19 (1.5)	20 (1.2)	92 (3.2)	197 (4.5)	136 (2.9)	226 (3.8)	255 (3.6)
マレーシア	21 (1.6)	22 (1.2)	55 (1.9)	168 (3.8)	139 (2.9)	126 (2.1)	149 (2.1)
フィリピン	17 (1.3)	9 (0.5)	25 (0.9)	71 (1.6)	103 (2.1)	92 (1.5)	95 (1.3)
インドネシア	35 (2.7)	22 (1.2)	51 (1.8)	100 (2.3)	76 (1.6)	93 (1.6)	89 (1.3)
輸入相手先							
合計	1,135 [6.2]	1,110 [5.9]	2,077 [6.1]	2,963 [5.8]	3,401 [5.3]	4,672 [4.5]	5,572 [4.1]
米国	208 (18.3)	226 (20.4)	486 (23.4)	643 (21.7)	645 (19.0)	554 (11.9)	627 (11.2)
E U	74 (6.5)	89 (8.1)	311 (15.0)	433 (14.6)	418 (12.3)	544 (11.6)	597 (10.7)
東アジア	280 (24.6)	317 (28.6)	605 (29.1)	1,122 (37.9)	1,433 (42.1)	2,029 (43.4)	2,368 (42.5)
中国	40 (3.6)	61 (5.5)	92 (4.4)	285 (9.6)	417 (12.2)	841 (18.0)	1,017 (18.3)
NIEs	77 (6.8)	114 (10.3)	303 (14.6)	500 (16.9)	587 (17.2)	644 (13.8)	697 (12.5)
韓国	30 (2.7)	45 (4.1)	126 (6.1)	170 (5.8)	205 (6.0)	222 (4.7)	248 (4.5)
台湾	22 (1.9)	35 (3.1)	83 (4.0)	132 (4.4)	166 (4.9)	144 (3.1)	159 (2.9)
香港	9 (0.8)	13 (1.2)	47 (2.3)	106 (3.6)	112 (3.3)	153 (3.3)	145 (2.6)
シンガポール	16 (1.4)	21 (1.9)	46 (2.2)	92 (3.1)	104 (3.1)	125 (2.7)	144 (2.6)
ASEAN[4]	163 (14.3)	142 (12.8)	210 (10.1)	337 (11.4)	430 (12.6)	544 (11.6)	654 (11.7)
タイ	10 (0.9)	10 (0.9)	40 (1.9)	95 (3.2)	102 (3.0)	150 (3.2)	181 (3.3)
マレーシア	30 (2.6)	38 (3.4)	45 (2.2)	92 (3.1)	128 (3.8)	134 (2.9)	160 (2.9)
フィリピン	15 (1.4)	9 (0.8)	16 (0.8)	27 (0.9)	56 (1.6)	72 (1.5)	78 (1.4)
インドネシア	108 (9.5)	86 (7.8)	109 (5.3)	123 (4.1)	144 (4.2)	189 (4.0)	235 (4.2)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所) ジェトロ『ジェトロ貿易投資白書』各年版。

注) ( ) 内の数値はそれぞれ輸出入に占める構成比、[ ] 内の数値は世界の輸出額に占める比率。

は域内輸出比率が53.5%、域内輸入比率が45.8%であった)<sup>(6)</sup>。これは、域内貿易では輸出比率よりも輸入比率のほうが高い東アジア全体の傾向とは逆である。また同時に、このことは日本にとって東アジアは輸入市場としてよりも輸出市場としてより重要であることを意味している。それは輸出比率がとくに高いNIEsに対して当てはまる。

また貿易収支についてみると、日本はNIEsに対して巨額の黒字を挙げているために東アジア全体に対して常に黒字となっている。

なお、域外の米国やEUとの貿易では輸出入とも比重が低下する傾向にあるとはいえ、常に輸出比率のほうが輸入比率よりも高い。そして、EUやNAFTAとの貿易収支では恒常的に黒字となっている。これは日本だけの特徴ではなく、中国、NIEs、ASEAN[4]にも共通する東アジア全体の特徴となっている。

### (イ) 中国と東アジア域内貿易

表4によれば、中国の対東アジア域内貿易比率は、輸出が1990年50.6%から2007年28.3%へ、輸入が同期間に46.7%から43.7%へと低下している（日本

表4 世界貿易マトリクスからみた中国の貿易相手先

(単位：億米ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	181 [1.0]	273 [1.5]	628 [1.9]	1,490 [2.9]	2,492 [3.9]	7,623 [7.3]	12,197 [8.9]
米国	10 (5.4)	23 (8.5)	53 (8.5)	247 (16.6)	522 (20.9)	1,633 (21.4)	2,378 (19.5)
EU	27 (14.8)	27 (10.0)	64 (10.2)	203 (13.6)	408 (16.4)	1,439 (18.9)	2,461 (20.2)
日本	40 (22.2)	61 (22.3)	92 (14.7)	285 (19.1)	417 (16.7)	841 (11.0)	1,017 (8.3)
東アジア	55 (30.6)	100 (36.4)	317 (50.6)	545 (36.6)	765 (30.7)	2,258 (29.6)	3,453 (28.3)
NIEs	48 (26.3)	92 (33.7)	299 (47.7)	490 (32.9)	672 (27.0)	1,943 (25.5)	2,958 (24.3)
韓国	—	—	4 (0.7)	67 (4.5)	113 (4.5)	351 (4.6)	556 (4.6)
台湾	—	—	3 (0.5)	28 (1.9)	56 (2.2)	180 (2.4)	252 (2.1)
香港	44 (24.0)	71 (26.2)	272 (43.3)	360 (24.2)	445 (17.9)	1,245 (16.3)	1,857 (15.2)
シンガポール	4 (2.3)	21 (7.5)	20 (3.2)	35 (2.3)	58 (2.3)	167 (2.2)	294 (2.4)
ASEAN[4]	8 (4.3)	7 (2.7)	18 (2.9)	55 (3.7)	93 (3.7)	315 (4.1)	495 (4.1)
タイ	3 (1.7)	1 (0.4)	9 (1.4)	18 (1.2)	22 (0.9)	78 (1.0)	120 (1.0)
マレーシア	2 (1.0)	2 (0.7)	4 (0.6)	13 (0.9)	26 (1.0)	106 (1.4)	173 (1.4)
フィリピン	3 (1.4)	3 (1.1)	2 (0.3)	10 (0.7)	15 (0.6)	47 (0.6)	74 (0.6)
インドネシア	0 (0.1)	1 (0.5)	4 (0.6)	14 (1.0)	31 (1.2)	84 (1.1)	127 (1.0)
合計	178 [1.0]	382 [2.0]	491 [1.5]	1,460 [2.9]	2,118 [3.3]	6,477 [6.2]	8,809 [6.4]
米国	38 (21.0)	39 (10.1)	48 (9.8)	117 (8.0)	160 (7.5)	418 (6.5)	652 (7.4)
EU	29 (16.2)	63 (16.6)	76 (15.6)	194 (13.3)	235 (11.1)	644 (9.9)	984 (11.2)
日本	51 (28.6)	126 (33.0)	61 (12.5)	219 (15.0)	304 (14.3)	800 (12.4)	1,102 (12.5)
東アジア	19 (10.9)	88 (23.0)	229 (46.7)	756 (51.8)	1,071 (50.5)	3,060 (47.2)	3,853 (43.7)
NIEs	16 (8.7)	82 (21.4)	211 (43.1)	701 (48.1)	978 (46.2)	2,607 (40.3)	3,245 (36.8)
韓国	—	—	0	91 (6.3)	185 (8.7)	699 (10.8)	930 (10.6)
台湾	—	—	0	4 (0.3)	42 (2.0)	408 (6.3)	624 (7.1)
香港	12 (7.0)	79 (20.6)	203 (41.4)	579 (39.6)	697 (32.9)	1,303 (20.1)	1,402 (15.9)
シンガポール	3 (1.7)	3 (0.9)	8 (1.6)	28 (1.9)	54 (2.5)	198 (3.0)	289 (3.3)
ASEAN[4]	4 (2.2)	6 (1.6)	18 (3.6)	55 (3.8)	93 (4.4)	453 (7.0)	608 (6.9)
タイ	1 (0.7)	3 (0.7)	3 (0.5)	16 (1.1)	28 (1.3)	91 (1.4)	148 (1.7)
マレーシア	2 (1.2)	2 (0.4)	6 (1.3)	19 (1.3)	30 (1.4)	183 (2.8)	153 (1.7)
フィリピン	0 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.1)	2 (0.1)	7 (0.3)	102 (1.6)	196 (2.2)
インドネシア	0 (0.0)	1 (0.2)	8 (1.7)	17 (1.2)	28 (1.3)	77 (1.2)	111 (1.3)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所)、注)とも表3と同じ。

を含めると、それぞれ65.3%から36.6%へ、59.2%から56.2%へと低下)。とくに輸出比率は急減している。これは、輸出入両面における香港の比重の低下と、域外の米国やEUへの輸出比率の増加によって引き起こされたものであるが、この域内輸出入比率の低下は東アジア全体のみならず、日本やNIEs、ASEAN[4]にはみられない中国だけの特徴である。そして、このことは中国にとって輸出面では域内よりも域外（とりわけ米国やEU）のほうが重要な地位を占めるようになってきていることを示している。同時に、域内では輸出比率よりも輸入比率のほうがはるかに高いことから、中国にとって東アジアは輸出市場よりも輸入市場として重要な位置を占めていることになる。中国では域内＝輸入市場、域外（とくに米国やEU）＝輸出市場といった構図が形成されているのである。実際、中国は東アジアとの貿易収支では大幅な赤字を計上し、逆に、EUやNAFTAに対しては恒常的に黒字となっている。

#### （ウ）NIEsと東アジア域内貿易

表5によれば、NIEsの対東アジア域内貿易比率は、輸出が1990年27.7%から2007年51.6%へ（23.9ポイント増）、輸入が同期間に32.4%から49.1%へ（16.7ポイント増）と増えた。とくに輸出の増加率は高く、この間に逆転して輸出比率のほうが輸入比率よりも高くなっている。輸出比率・輸入比率ともに増加している点は中国を除く東アジアに共通している。また輸出比率のほうが輸入比率よりも高い点は日本と共通し、東アジア全体や中国、ASEAN[4]とは異なっている。これらは東アジア域内貿易に関してNIEsと日本が共通の位置にあることを示している。日本との相違点は、NIEs・日本間貿易関係において日本からみるとNIEs＝輸出市場、NIEsからみると日本＝輸入市場と位置付けられている点であろう。

貿易収支では、中国やASEAN[4]に対しては黒字、したがって東アジアに対しては常に黒字であるが、日本に対してはそれを上回る赤字を計上しているために日本を含めた東アジアに対しては赤字となっている。

表5 世界貿易マトリクスからみたNIEsの貿易相手先

(単位：億米ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	763 [4.2]	1,140 [6.1]	2,699 [8.0]	5,347 [10.5]	6,601 [10.3]	9,697 [9.3]	12,019 [8.7]
米国	189 (24.8)	397 (34.8)	722 (26.7)	1,102 (20.6)	1,436 (21.8)	1,402 (14.5)	1,400 (11.6)
E U	135 (17.8)	132 (11.6)	455 (16.9)	753 (14.1)	984 (14.9)	1,303 (13.4)	1,477 (12.3)
日本	77 (10.1)	114 (10.0)	303 (11.2)	500 (9.4)	587 (8.9)	644 (6.6)	697 (5.8)
東アジア	166 (21.7)	263 (23.0)	749 (27.7)	2,090 (39.1)	2,614 (39.6)	4,906 (50.6)	6,205 (51.6)
中国	16 (2.0)	82 (7.2)	211 (7.8)	701 (13.1)	978 (14.8)	2,607 (26.9)	3,245 (27.0)
NIEs	69 (9.1)	95 (8.4)	305 (11.3)	798 (14.9)	959 (14.5)	1,236 (12.7)	1,582 (13.2)
韓国	8 (1.0)	11 (0.9)	43 (1.6)	86 (1.6)	127 (1.9)	198 (2.0)	254 (2.1)
台湾	6 (0.8)	7 (0.6)	38 (1.4)	82 (1.5)	146 (2.2)	180 (1.9)	196 (1.6)
香港	39 (5.1)	56 (4.9)	158 (5.8)	469 (8.8)	529 (8.0)	643 (6.6)	855 (7.1)
シンガポール	17 (2.2)	22 (2.0)	66 (2.5)	160 (3.0)	200 (3.0)	214 (2.2)	278 (2.3)
ASEAN[4]	81 (10.6)	85 (7.5)	233 (8.6)	591 (11.1)	677 (10.2)	1,063 (11.0)	1,377 (11.5)
タイ	14 (1.8)	15 (1.3)	70 (2.6)	139 (2.6)	123 (1.9)	195 (2.0)	255 (2.1)
マレーシア	34 (4.5)	44 (3.9)	93 (3.4)	301 (5.6)	340 (5.1)	421 (4.3)	539 (4.5)
フィリピン	9 (1.2)	10 (0.9)	28 (1.1)	71 (1.3)	118 (1.8)	143 (1.5)	182 (1.5)
インドネシア	23 (3.0)	16 (1.4)	42 (1.6)	80 (1.5)	96 (1.5)	304 (3.1)	400 (3.3)
合計	849 [4.6]	944 [5.0]	2,455 [7.3]	4,961 [9.8]	5,816 [9.1]	8,766 [8.4]	11,586 [8.4]
米国	146 (17.2)	165 (17.4)	406 (16.5)	736 (14.8)	820 (14.1)	835 (9.5)	1,050 (9.1)
E U	89 (10.4)	112 (11.8)	323 (13.1)	652 (13.1)	628 (10.8)	881 (10.0)	1,091 (9.4)
日本	189 (22.3)	226 (23.9)	557 (22.7)	1,093 (22.0)	1,134 (19.5)	1,426 (16.3)	1,562 (13.5)
東アジア	201 (23.6)	280 (29.7)	796 (32.4)	1,784 (36.0)	2,314 (39.8)	4,100 (46.8)	5,685 (49.1)
中国	48 (5.6)	92 (9.8)	299 (12.2)	490 (9.9)	672 (11.6)	1,943 (22.2)	2,958 (25.5)
NIEs	69 (8.1)	95 (10.1)	305 (12.4)	798 (16.1)	959 (16.5)	1,236 (14.1)	1,582 (13.7)
韓国	13 (1.5)	22 (2.3)	68 (2.8)	213 (4.3)	244 (4.2)	318 (3.6)	415 (3.6)
台湾	24 (2.8)	37 (3.9)	120 (4.9)	331 (6.7)	407 (7.0)	438 (5.0)	563 (4.9)
香港	13 (1.5)	17 (1.8)	58 (2.4)	94 (1.9)	105 (1.8)	139 (1.6)	143 (1.2)
シンガポール	20 (2.3)	20 (2.1)	59 (2.4)	160 (3.2)	203 (3.5)	341 (3.9)	463 (4.0)
ASEAN[4]	84 (9.8)	93 (9.8)	192 (7.8)	496 (10.0)	683 (11.7)	922 (10.5)	1,144 (9.9)
タイ	10 (1.1)	11 (1.2)	35 (1.4)	130 (2.6)	132 (2.3)	184 (2.1)	244 (2.1)
マレーシア	34 (4.0)	45 (4.8)	99 (4.1)	236 (4.8)	305 (5.2)	413 (4.7)	470 (4.1)
フィリピン	6 (0.7)	6 (0.6)	10 (0.4)	28 (0.6)	94 (1.6)	119 (1.4)	143 (1.2)
インドネシア	34 (4.0)	30 (3.2)	47 (1.9)	103 (2.1)	151 (2.6)	206 (2.3)	288 (2.5)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所)、注)とも表3と同じ。

なお、個々のNIEsに関してNIEs全体とは異なる点をここで指摘しておく。

- ①香港は対NIEs貿易の結果として、域内輸入比率のほうが域内輸出比率よりも高くなっている。②シンガポールの対東アジア貿易ではASEAN[4]の比重が最も高く、中国の比重は相対的に低い。中国の比重はNIEsの比重よりも低い場合が多い。③香港は他のNIEsすべてに対して、またASEAN[4]に対して貿易収支が赤字であるために、対東アジア全体の貿易収支で

も赤字となっている。なおNIEs間貿易収支では韓国が台湾、香港、シンガポールすべてに対して黒字、台湾は香港、シンガポールに対して黒字、シンガポールは香港に対してのみ黒字という関係にある（以上については文末の参考表1～参考表4を参照されたい）。

### (エ) ASEAN[4] と東アジア域内貿易

表6によれば、ASEAN[4] の対東アジア域内貿易比率は、輸出が1990

表6 世界貿易マトリクスからみた ASEAN[4] の貿易相手先

(単位：億米ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	472 [2.6]	457 [2.4]	864 [2.6]	1,937 [3.8]	2,674 [4.2]	4,201 [4.0]	5,220 [3.8]
米国	88 (18.7)	91 (19.8)	167 (19.3)	379 (19.6)	548 (20.5)	688 (16.4)	700 (13.4)
E U	66 (14.0)	56 (12.2)	146 (16.9)	298 (15.4)	407 (15.2)	542 (12.9)	663 (12.7)
日本	163 (34.5)	142 (31.1)	210 (24.3)	337 (17.4)	430 (16.1)	544 (13.0)	654 (12.5)
東アジア	103 (21.8)	119 (26.0)	246 (28.5)	659 (34.0)	964 (36.0)	1,753 (41.7)	2,219 (42.5)
中国	4 (0.8)	6 (1.3)	18 (2.1)	55 (2.8)	93 (3.5)	453 (10.8)	608 (11.6)
NIEs	84 (17.7)	93 (20.2)	192 (22.2)	496 (25.6)	683 (25.6)	922 (21.9)	1,144 (21.9)
韓国	8 (1.7)	18 (3.9)	33 (3.9)	62 (3.2)	100 (3.7)	152 (3.6)	199 (3.8)
台湾	11 (2.2)	10 (2.3)	23 (2.7)	65 (3.4)	132 (4.9)	139 (3.3)	161 (3.1)
香港	9 (1.9)	10 (2.3)	29 (3.4)	93 (4.8)	114 (4.3)	188 (4.5)	240 (4.6)
シンガポール	56 (11.8)	54 (11.9)	106 (12.3)	276 (14.3)	337 (12.6)	443 (10.6)	544 (10.4)
ASEAN[4]	15 (3.2)	20 (4.5)	36 (4.2)	108 (5.6)	188 (7.0)	379 (9.0)	467 (8.9)
タイ	3 (0.6)	7 (1.5)	14 (1.6)	44 (2.3)	58 (2.2)	118 (2.8)	142 (2.7)
マレーシア	4 (0.9)	6 (1.3)	10 (1.1)	29 (1.5)	62 (2.3)	120 (2.9)	158 (3.0)
フィリピン	4 (0.9)	6 (1.4)	7 (0.8)	17 (0.9)	36 (1.4)	57 (1.4)	63 (1.2)
インドネシア	4 (0.8)	1 (0.3)	6 (0.6)	19 (1.0)	32 (1.2)	84 (2.0)	104 (2.0)
合計	386 [2.1]	332 [1.8]	865 [2.6]	2,070 [4.1]	2,195 [3.4]	3,282 [3.2]	4,487 [3.3]
米国	61 (15.9)	46 (13.7)	108 (12.5)	239 (11.5)	285 (13.0)	276 (8.4)	321 (7.1)
E U	57 (14.6)	51 (15.5)	139 (16.1)	325 (15.7)	220 (10.0)	317 (9.6)	394 (8.8)
日本	92 (23.7)	74 (22.2)	222 (25.7)	536 (25.9)	454 (20.7)	537 (16.4)	588 (13.1)
東アジア	104 (26.9)	113 (34.0)	287 (33.2)	754 (36.4)	958 (43.6)	1,757 (53.5)	2,338 (52.1)
中国	8 (2.0)	7 (2.2)	18 (2.1)	55 (2.7)	93 (4.3)	315 (9.6)	495 (11.0)
NIEs	81 (20.9)	85 (25.6)	233 (26.9)	591 (28.5)	677 (30.8)	1,063 (32.4)	1,377 (30.7)
韓国	9 (2.2)	10 (3.1)	33 (3.8)	98 (4.7)	124 (5.6)	167 (5.1)	215 (4.8)
台湾	10 (2.6)	9 (2.9)	46 (5.3)	95 (4.6)	109 (5.0)	144 (4.4)	184 (4.1)
香港	13 (3.5)	11 (3.3)	33 (3.8)	62 (3.0)	66 (3.0)	91 (2.8)	112 (2.5)
シンガポール	49 (12.6)	55 (16.4)	122 (14.1)	335 (16.2)	377 (17.2)	661 (20.2)	866 (19.3)
ASEAN[4]	15 (3.9)	20 (6.1)	36 (4.2)	108 (5.2)	188 (8.6)	379 (11.5)	467 (10.4)
タイ	6 (1.4)	5 (1.4)	9 (1.0)	28 (1.3)	52 (2.4)	117 (3.6)	155 (3.4)
マレーシア	4 (1.1)	10 (2.9)	18 (2.0)	45 (2.2)	70 (3.2)	133 (4.1)	161 (3.6)
フィリピン	3 (0.7)	3 (0.8)	3 (0.4)	12 (0.6)	28 (1.3)	43 (1.3)	50 (1.1)
インドネシア	3 (0.7)	4 (1.1)	6 (0.7)	23 (1.1)	38 (1.7)	85 (2.6)	102 (2.3)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所)、注) とも表3と同じ。

年28.5%から2007年42.5%へ（14.0ポイント増）、輸入が同期間に33.2%から52.1%へ（18.9ポイント増）と増えた。とくに輸入の増加率は高い。域内では輸出比率よりも輸入比率が高いことは東アジア全体、ならびに中国と同じである。ASEAN[4] での特徴は何と言っても東アジアのなかでNIEsが輸出入とも最大の比重を占めていることであろう。中国の比重が輸出入とも急増しているとはいえ、2007年時点でもNIEs向け輸出は中国向け輸出の1.88倍、NIEsからの輸入は中国からの輸入の2.78倍も多いのである。

なおASEAN[4] の全体的な傾向と異なる点としては、フィリピンが域内では輸出比率のほうが輸入比率よりも高いことが挙げられる（文末の参考表5～参考表8参照）。

## II. 中国の貿易構造と東アジア

### （1）中国全体の趨勢

#### （ア）貿易収支

中国側の貿易統計によれば（表7およびそこで用いた統計資料を参照）、中国の貿易収支は1980年代末までは赤字基調であったが、1990年以後は1993年を除いてずっと黒字が続いている。地域別では対米国貿易収支が1993年に、また対EU貿易収支が1997年に赤字から黒字に転じ、逆に対東アジア貿易収支は2000年に黒字から赤字に転じるという動きを示している。

東アジア地域では、対日本貿易収支が1992～1995年と1999年、ならびに2002年以降は赤字となっている。対NIEs貿易収支では常に中国の黒字となっているが、これは主として対香港貿易で恒常的に巨額の黒字を挙げている結果である。対シンガポール貿易では1999年以降は黒字基調となっているが（2002～2004年を除く）、対台湾貿易では終始一貫して赤字であり、また対韓国貿易でも1993年以降はずっと赤字を計上している。対ASEAN[4]貿易では赤字が続いているが、これは対マレーシア貿易が常に赤字であったことに加え、対タイ貿易が1996年に、対フィリピン貿易が2000年に赤字

表7 中国の主要国・地域別貿易動向

年	1990			2000			2004		
	輸出	輸入	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
東アジア	40,968 (66.0)	27,734 (52.0)	13,234	117,599 (47.2)	120,640 (53.6)	△ 3,041	252,835 (42.6)	293,102 (52.2)	△ 40,267
日本	9,011 (14.5)	7,588 (14.2)	1,423	41,654 (16.7)	41,510 (18.4)	144	73,509 (12.4)	94,327 (16.8)	△ 20,818
NIEs	30,204 (48.6)	18,044 (33.8)	12,160	66,611 (26.7)	63,190 (28.1)	3,421	154,913 (26.1)	152,784 (27.2)	2,127
韓国	1,260 (2.0)	684 (1.3)	576	11,292 (4.5)	23,207 (10.3)	△ 11,915	27,812 (4.7)	62,234 (11.1)	△ 34,423
台湾	320 (0.5)	2,255 (4.2)	△ 1,935	5,039 (2.0)	25,494 (11.3)	△ 20,455	13,544 (2.3)	64,759 (11.5)	△ 51,215
香港	26,650 (42.9)	14,254 (26.7)	12,396	44,518 (17.9)	9,429 (4.2)	35,089	100,869 (17.0)	11,797 (2.1)	89,072
シンガポール	1,975 (3.2)	851 (1.6)	1,124	5,761 (2.3)	5,060 (2.2)	701	12,688 (2.1)	13,994 (2.5)	△ 1,307
ASEAN[4]	1,753 (2.8)	2,102 (3.9)	△ 348	9,334 (3.7)	15,940 (7.1)	△ 6,606	24,413 (4.1)	45,991 (8.2)	△ 21,578
タイ	823 (1.3)	371 (0.7)	452	2,243 (0.9)	4,381 (1.9)	△ 2,138	5,802 (1.0)	11,541 (2.1)	△ 5,739
マレーシア	341 (0.5)	842 (1.6)	△ 501	2,565 (1.0)	5,480 (2.4)	△ 2,915	8,086 (1.4)	18,175 (3.2)	△ 10,089
フィリピン	210 (0.3)	85 (0.2)	125	1,464 (0.6)	1,677 (0.7)	△ 213	4,269 (0.7)	9,059 (1.6)	△ 4,791
インドネシア	379 (0.6)	803 (1.5)	△ 424	3,062 (1.2)	4,402 (2.0)	△ 1,340	6,256 (1.1)	7,216 (1.3)	△ 959
EU	5,830 (9.4)	8,350 (15.7)	△ 2,520	38,192 (15.3)	30,845 (13.7)	7,347	107,152 (18.1)	70,093 (12.5)	37,058
米国	5,179 (8.3)	6,588 (12.3)	△ 1,409	52,099 (20.9)	22,363 (9.9)	29,736	124,942 (21.1)	44,657 (8.0)	80,285
合計	62,091 (100.0)	53,345 (100.0)	8,746	249,203 (100.0)	225,094 (100.0)	24,109	593,326 (100.0)	561,229 (100.0)	32,097

出所) 中華人民共和国海関総署『海関統計年鑑』各年版、同『海関統計』2011年12月号。

に転じ、さらに対インドネシア貿易が2000年代末を除いて常に赤字であったためである<sup>(7)</sup>。

ただし相手国側貿易統計から対中国貿易収支をみると、かなり様相が異なる<sup>(8)</sup>。2000年以降に限定すると、対中国貿易収支では米国とEUは常に赤字、韓国と台湾は常に黒字となっている点は中国側統計と同じである。だが、日本とタイは常に赤字、香港とシンガポールは2000～2008年間は赤字、2009年以降は黒字、マレーシアは2000年と2002～2008年は赤字、2001年と2009年以降は黒字、フィリピンは2002年と2003年、2005～2008年は黒字、



(単位：100 万米ドル、%)

2008			2010			2011		
輸出	輸入	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
502,392 (35.1)	490,749 (43.3)	11,643	547,169 (34.7)	588,475 (42.1)	△ 41,305	666,992 (35.1)	676,115 (38.8)	△ 9,123
116,132 (8.1)	150,600 (13.3)	△ 34,468	121,043 (7.7)	176,736 (12.7)	△ 55,693	148,298 (7.8)	194,590 (11.2)	△ 46,292
322,844 (22.6)	248,563 (21.9)	74,282	349,089 (22.1)	291,077 (20.8)	58,013	421,631 (22.2)	331,040 (19.0)	90,592
73,932 (5.2)	112,138 (9.9)	△ 38,206	68,766 (4.4)	138,349 (9.9)	△ 69,583	82,924 (4.4)	162,709 (9.3)	△ 79,786
25,877 (1.8)	103,338 (9.1)	△ 77,461	29,674 (1.9)	115,739 (8.3)	△ 86,064	35,112 (1.8)	124,920 (7.2)	△ 89,808
190,729 (13.3)	12,916 (1.1)	177,814	218,302 (13.8)	12,260 (0.9)	206,042	268,025 (14.1)	15,499 (0.9)	252,527
32,306 (2.3)	20,171 (1.8)	12,135	32,347 (2.1)	24,729 (1.8)	7,618	35,570 (1.9)	27,912 (1.6)	7,659
63,416 (4.4)	91,586 (8.1)	△ 28,170	77,037 (4.9)	120,662 (8.6)	△ 43,625	97,063 (5.1)	150,485 (8.6)	△ 53,423
15,636 (1.1)	25,657 (2.3)	△ 10,021	19,741 (1.3)	33,196 (2.4)	△ 13,455	25,697 (1.4)	39,040 (2.2)	△ 13,344
21,455 (1.5)	32,101 (2.8)	△ 10,646	23,802 (1.5)	50,447 (3.6)	△ 26,645	27,890 (1.5)	62,145 (3.6)	△ 34,255
9,132 (0.6)	19,505 (1.7)	△ 10,373	11,540 (0.7)	16,222 (1.2)	△ 4,682	14,254 (0.8)	18,000 (1.0)	△ 3,746
17,193 (1.2)	14,323 (1.3)	2,870	21,954 (1.4)	20,797 (1.5)	1,157	29,222 (1.5)	31,300 (1.8)	△ 2,078
293,148 (20.5)	132,634 (11.7)	160,514	311,219 (19.7)	168,370 (12.1)	142,849	356,020 (18.8)	211,193 (12.1)	144,827
252,384 (17.6)	81,360 (7.2)	171,024	283,287 (18.0)	102,099 (7.3)	181,188	324,493 (17.1)	122,154 (7.0)	202,339
1,430,693 (100.0)	1,132,562 (100.0)	298,131	1,577,754 (100.0)	1,396,244 (100.0)	181,510	1,898,600 (100.0)	1,743,458 (100.0)	155,142

2000年、2001年と2009年以降は赤字、インドネシアは2007年まで黒字、2008年以降は赤字となっている点で中国側の統計と異なっている。たとえば2011年の中国—日本間貿易は、表7によれば、中国の輸入は輸出の1.33倍で中国側の463億米ドルの赤字であったが、逆に日本側統計では日本の輸入（1,835億ドル）は輸出（1,615億米ドル）の1.14倍で日本側の220億米ドルの赤字であった。この乖離幅は極めて大きい。

また、中国—米国間貿易のように両国の統計とも中国側が黒字であっても、中国側統計では、2011年の中国の輸出は輸入の2.66倍で、中国側の2,023

億米ドルの黒字であるが（表7参照）、米国側の統計では米国の輸入（3,994億米ドル）は輸出（1,039億米ドル）の3.84倍で中国側の2,954億米ドルの黒字というように、米国側統計では中国の黒字額がさらに拡大する（46.0%増）。逆に中国—韓国間貿易では、中国側統計では797.9億米ドルの赤字であるが（表7参照）、韓国側統計では韓国の輸出（1,341.9億米ドル）は輸入（864.3億米ドル）の1.55倍で、中国側の477.5億米ドルの赤字というように、中国側の赤字額がさらに減少する（40.2%減）。

通常、貿易統計では国際収支統計とは異なり、輸出入は通関ベースで計上される。すなわち、輸出はFOB価格（本船渡し価格）で、また輸入はCIF価格（運賃・保険料込価格）で表示される。CIF価格はFOB価格に運賃・保険料が加算されるので1割ほど高くなるといわれている。したがって、A国—B国間貿易で、A国、B国ともに相手国に対して貿易収支が赤字となることもありうる。しかし、ここで述べたように貿易に関する中国側統計と相手国側統計との間の乖離は異常である。

この貿易統計上の乖離問題の検討は補論に譲り、以下ではこのような統計上の問題点があることを前提にしつつ、中国側の統計に依拠して考察を進めていきたい。

#### （イ）主要輸出入品目構成の推移（表8）

貿易品目をHS 2ケタ分類に基づいてみると<sup>(9)</sup>、輸出では2000年代を通じて最終財・中間財としての性格が強い(85)電気機器、(84)ボイラー・機械類が1位、2位を独占している。これら2品目のシェアは2000年の29.3%から2004年には41.8%へと4年間で一挙に12.5ポイントも増加したが、その後、金額は急増してはいるもののシェアは伸び悩んでいる。従来からの伝統的輸出品目であり、最終消費財や素材としての性格が強い(61)アパレル(メリヤス類)や(62)アパレル(メリヤス類以外)は2011年時点でも3位、4位を占めているが、シェアは漸減している。2000年時点で上位10位以内に入っていた伝統的輸出品目では、最終消費財型の(42)皮革製品が2004年に、(64)履

物・ゲートルが2008年に、(95)玩具・スポーツ用品が2011年に、また素材型の(27)鉱物燃料・鉱物油は2008年に10位圏外となった。新しい輸出品目としては、最終財・中間財型の(90)光学・映写・計量・医療器具や(87)鉄道・軌道用以外の車両（主に自動車・同部品からなる）や、最終消費財型の(94)家具・寝具・マットレス、(89)船舶などが挙げられる。

輸入でも輸出と同じく、2000年代を通じて(85)電気機器と(84)ボイラー・機械類が上位を独占している。今日、中国ではこれら2品目を中心に貿易が展開しているといえる。ただし、両品目とも2000年代半ばをピークに輸入シェアは漸減しつつある。これと対照的なのが、急激な工業化によってかつて中国の主要輸出品であった(27)鉱物燃料・鉱物油の輸入が急増していることである。シェアも2004年の8.6%から2008年には14.9%に上昇して、(84)ボイラー・機械類を抜いて2位に入り、さらに2011年には比重が15.8%に増加している。素材型の(26)鉱石・スラグ・灰は新たに2004年に8位に入り、その後もシェアを拡大させ2008年、2011年は4位を維持している。また中間財(加工品)として、さらに最終消費財、素材としての性格を併せ持つ(39)プラスチック、(29)有機化学、(74)銅・同製品も2000年代を通じてかなりの比重を占めている。(90)光学・映写・計量・医療器具や(87)鉄道・軌道用以外の車両は、主要な輸出品であると同時に、主要な輸入品ともなっている。

#### (ウ) 貿易収支の上位黒字・赤字品目構成の推移（表9）

貿易収支黒字品目では、2000年時点でも伝統的輸出品目である(62)アパレル(メリヤス以外)と(61)アパレル(メリヤス)が1位、2位を占めた。2011年には前者は4位に、後者は3位に順位は落ちてはいるが、黒字額それ自体は着実に増えている。これらに代わって順位を上げているのが、(84)ボイラー・機械類、(85)電気機器である。ボイラー・機械類は2000年には貿易収支が76億米ドルの赤字で、赤字品目中3位にあったが、2004年にはいきなり265億米ドルの黒字を挙げて黒字品目2位に入り、さらに2008年には

表8 中国の上位輸出入品目構成の推移

年	2000		2004	
輸出		2492 (100.0)		5,933 (100.0)
1位	(85) 電気機器	461 (18.5)	(85) 電気機器	1,297 (21.9)
2位	(84) ボイラー・機械類	268 (10.8)	(84) ボイラー・機械類	1,181 (19.9)
3位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	189 (7.6)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	290 (4.9)
4位	(61) アパレル(メリヤス類)	134 (5.4)	(61) アパレル(メリヤス類)	258 (4.3)
5位	(64) 履物・ゲートル	99 (4.0)	(64) 家具・寝具・マットレス	173 (2.9)
6位	(95) 玩具・スポーツ用品	92 (3.7)	(95) 光学・映写・計量・医療器具	162 (2.7)
7位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	79 (3.2)	(27) 履物・ゲートル	152 (2.6)
8位	(94) 家具・寝具・マットレス	70 (2.8)	(94) 玩具・スポーツ用品	151 (2.5)
9位	(42) 皮革製品	66 (2.6)	(42) 鉱物燃料・鉱物油	145 (2.4)
10位	(39) プラスチック	64 (2.6)	(39) 鉄鋼製品	137 (2.3)
輸入		2,251 (100.0)		5,612 (100.0)
1位	(85) 電気機器	507 (22.5)	(85) 電気機器	1,423 (25.4)
2位	(84) ボイラー・機械類	344 (15.3)	(84) ボイラー・機械類	916 (16.3)
3位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	207 (9.2)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	480 (8.6)
4位	(39) プラスチック	145 (6.4)	(39) 光学・映写・計量・医療器具	401 (7.2)
5位	(72) 鉄鋼	96 (4.3)	(72) プラスチック	281 (5.0)
6位	(29) 有機化学	83 (3.7)	(29) 有機化学	238 (4.2)
7位	(90) 光学・映写・計量・医療器具	73 (3.2)	(90) 鉄鋼	237 (4.2)
8位	(74) 銅・同製品	47 (2.1)	(74) 鉱石・スラグ・灰	172 (3.1)
9位	(48) 紙・板紙	40 (1.8)	(48) 鉄道・電車道以外の車両	131 (2.3)
10位	(44) 木材・同製品	37 (1.7)	(44) 銅・同製品	105 (1.9)

出所) 中華人民共和国国家統計局編『中国対外経済統計年鑑』各年版。

注) 各品目の左側の( )内の2ケタの番号はHS(Harmonized Commodity Description and Coding System)。

表9 中国の貿易収支の上位黒字品目・赤字品目の推移

年	2000		2004		
黒字品目	1位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	181	(62) アパレル(メリヤス類以外)	282
	2位	(61) アパレル(メリヤス類)	130	(84) ボイラー・機械類	265
	3位	(64) 履物・ゲートル	95	(61) アパレル(メリヤス類)	252
	4位	(95) 玩具・スポーツ用品	90	(94) 家具・寝具・マットレス	165
	5位	(94) 家具・寝具・マットレス	68	(64) 履物・ゲートル	147
	6位	(42) 皮革製品	65	(95) 玩具・スポーツ用品	146
	7位	(73) 鉄鋼製品	38	(42) 皮革製品	101
赤字品目	1位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 128	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 335
	2位	(39) プラスチック	△ 81	(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 239
	3位	(84) ボイラー・機械類	△ 76	(26) 鉱石・スラグ・灰	△ 167
	4位	(72) 鉄鋼	△ 60	(39) プラスチック	△ 150
	5位	(85) 電気機器	△ 47	(29) 有機化学	△ 148
	6位	(29) 有機化学	△ 42	(85) 電気機器	△ 127
	7位	(74) 銅・同製品	△ 38	(72) 鉄鋼	△ 122

出所、注) とも表8と同じ。

1位に躍り出て、その後も首位の座を維持するとともに黒字額を増やしている。また電気機器は赤字が2000年の47億米ドルから2004年には127億米ドルに増えたが、2008年には輸出入額が逆転して一挙に756億ドルもの黒字を挙げて2位にランクインした。2011年でも黒字額を増やして2位を維持し

(単位：億米ドル、%)

2008			2011		
	14,307	(100.0)		18,984	(100.0)
(85) 電気機器	3,421	(23.9)	(85) 電気機器	4,458	(23.5)
(84) ボイラー・機械類	2,687	(18.8)	(84) ボイラー・機械類	3,538	(18.6)
(61) アパレル(メリヤス類)	609	(4.3)	(61) アパレル(メリヤス類)	802	(4.2)
(72) 鉄鋼	535	(3.7)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	631	(3.3)
(62) アパレル(メリヤス類以外)	525	(3.7)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	607	(3.2)
(73) 鉄鋼製品	484	(3.4)	(94) 家具・寝具・マットレス	593	(3.1)
(90) 光学・映写・計量・医療器具	433	(3.0)	(73) 鉄鋼製品	512	(2.7)
(94) 家具・寝具・マットレス	428	(3.0)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	495	(2.6)
(87) 鉄道・軌道用以外の車両	393	(2.7)	(39) プラスチック	454	(2.4)
(95) 玩具・スポーツ用品	328	(2.3)	(89) 船舶	436	(2.3)
	11,326	(100.0)		17,435	(100.0)
(85) 電気機器	2,665	(23.5)	(85) 電気機器	3,510	(20.1)
(27) 鉱物燃料・鉱物油	1,693	(14.9)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	2,758	(15.8)
(84) ボイラー・機械類	1,388	(12.3)	(84) ボイラー・機械類	1,993	(11.4)
(26) 鉱石・スラグ・灰	859	(7.6)	(26) 鉱石・スラグ・灰	1,506	(8.6)
(90) 光学・映写・計量・医療器具	777	(6.9)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	991	(5.7)
(39) プラスチック	489	(4.3)	(39) プラスチック	702	(4.0)
(29) 有機化学	392	(3.5)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	655	(3.8)
(87) 鉄道・軌道用以外の車両	270	(2.4)	(29) 有機化学	631	(3.6)
(74) 銅・同製品	261	(2.3)	(74) 銅・同製品	542	(3.1)
(72) 鉄鋼	245	(2.2)	(98) 特殊取扱品	495	(2.8)

国際統一商品分類)による2ケタのコード番号。

(単位：億米ドル)

2008			2011		
(84) ボイラー・機械類	1,299		(84) ボイラー・機械類	1,545	
(85) 電気機器	756		(85) 電気機器	948	
(61) アパレル(メリヤス類)	600		(61) アパレル(メリヤス類)	790	
(62) アパレル(メリヤス類以外)	513		(62) アパレル(メリヤス類以外)	607	
(94) 家具・寝具・マットレス	413		(94) 家具・寝具・マットレス	565	
(73) 鉄鋼製品	379		(89) 船舶	416	
(95) 玩具・スポーツ用品	316		(73) 鉄鋼製品	410	
(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 1,375		(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 2,435	
(26) 鉱石・スラグ・灰	△ 850		(26) 鉱石・スラグ・灰	△ 1,500	
(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 344		(74) 銅・同製品	△ 475	
(12) 採油用果実、工業用植物	△ 211		(98) 特殊取扱品	△ 471	
(39) プラスチック	△ 191		(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 385	
(47) 木材・バルブ	△ 122		(12) 採油用果実、工業用植物	△ 297	
(29) 有機化学	△ 101		(39) プラスチック	△ 248	

ている。(94)家具・寝具・マットレス、(73)鉄鋼製品は順調に貿易黒字を稼いでいる品目である。伝統的黒字品目では、(64)履物・ゲートルが2000年3位から2004年5位に落ち、2008年には圏外となった。(42)皮革製品も同じく、2000年6位、2004年7位に落ち、2008年には圏外となった。(95)玩

具・スポーツ用品も2000年4位、2004年6位、2008年7位とじりじりと順位を下げ、ついに2011年には圏外となっている。新たな黒字品目として、2011年に初めてランクインした(88)船舶が注目されよう。

それに対して、貿易赤字品目では2000年代を通じて(27)鉱物燃料・鉱物油が首位を維持している。赤字額も2000年128億米ドル、2004年335億米ドルから2008年1,375億米ドル、2011年2,435億米ドルへと加速的に増加している。また、2004年に赤字額が167億米ドルで4位に入った(26)鉱石・スラグ・灰はその後も赤字額が急増し、2008年以降は鉱物燃料・鉱物油に次ぐ2位の位置にある。(39)プラスチック、(29)有機化学、(74)銅・同製品なども主な赤字品目として名を連ねている。(90)光学・映写・計量・医療器具は主要輸出品目となっているが、まだ赤字額が増加する傾向にある。

## (2) 中国の国・地域別貿易構成

ここでは、中国の貿易構造を国・地域別に検討する。国・地域としては最大の貿易黒字を挙げている米国と最大の貿易相手であるEU、ならびに東アジアでは日本、NIEsの韓国、ASEAN[4]のマレーシアを取り上げる。また紙幅の関係上、対照年を2000年と2011年に限定する(対台湾貿易、対タイ貿易についてはそれぞれ参考表9, 10を参照されたい)。

### (ア) 中国—米国間貿易(表10)

中国の対米国貿易も(84)ボイラー・機械類、(85)電気機器が輸出入の上位を占めている点で、中国全体の貿易趨勢とほぼ同じである。輸出入構成で中国全体との相違点を挙げるとするならば、次の点を指摘することができよう。

①2000年には輸出入とも1位電気機器、2位ボイラー・機械類の順であったのが、2011年には輸出入とも順位が入れ替わって1位ボイラー・機械類、2位電気機器となっている。とりわけ輸出におけるボイラー・機械類の伸びは顕著である(同期間に比重は1.9倍の12.2ポイント増となった)。

表10 中国の対米国貿易

(単位：100万米ドル、%)

年	2000			2011		
輸出額	52,104	(100.0)		324,493	(100.0)	
上位輸出品目	1位 (85) 電気機器	9,538	(18.3)	(84) ボイラー・機械類	82,019	(25.3)
	2位 (84) ボイラー・機械類	6,855	(13.2)	(85) 電気機器	67,969	(20.9)
	3位 (64) 履物・ゲートル	4,886	(9.4)	(94) 家具・寝具・マットレス	17,514	(5.4)
	4位 (95) 玩具・スポーツ用品	4,445	(8.5)	(61) アパレル(メリヤス類)	13,213	(4.1)
	5位 (94) 家具・寝具・マットレス	3,269	(6.3)	(95) 玩具・スポーツ用品	12,327	(3.8)
	6位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	2,190	(4.2)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	12,244	(3.8)
	7位 (39) プラスチック	2,083	(4.0)	(64) 履物・ゲートル	11,935	(3.7)
	8位 (42) 皮革製品	1,884	(3.6)	(39) プラスチック	9,461	(2.9)
	9位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	1,626	(3.1)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	8,528	(2.6)
	10位 (73) 鉄鋼製品	1,511	(2.9)	(73) 鉄鋼製品	8,002	(2.5)
輸入額	22,363	(100.0)		122,154	(100.0)	
上位輸入品目	1位 (85) 電気機器	4,700	(21.0)	(84) ボイラー・機械類	15,535	(12.7)
	2位 (84) ボイラー・機械類	4,503	(20.1)	(85) 電気機器	13,910	(11.4)
	3位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	1,578	(7.1)	(12) 採油用果実、飼料用植物等	12,877	(10.5)
	4位 (88) 航空機	1,454	(6.5)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	8,325	(6.8)
	5位 (12) 採油用果実、飼料用植物等	1,219	(5.5)	(39) プラスチック	6,678	(5.5)
	6位 (39) プラスチック	1,118	(5.0)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	6,675	(5.5)
	7位 (29) 有機化学	846	(3.8)	(88) 航空機	5,488	(4.5)
	8位 (47) 木材・パルプ	619	(2.8)	(47) 木材・パルプ	4,660	(3.8)
	9位 (31) 肥料	607	(2.7)	(98) 特殊取扱品	4,017	(3.3)
	10位 (48) 紙・板紙	595	(2.7)	(29) 有機化学	4,003	(3.3)
上位黒字品目	1位 (85) 電気機器	4,839		(84) ボイラー・機械類	66,484	
	2位 (64) 履物・ゲートル	4,818		(85) 電気機器	54,059	
	3位 (95) 玩具・スポーツ用品	4,426		(94) 家具・寝具・マットレス	17,269	
	4位 (94) 家具・寝具・マットレス	3,231		(61) アパレル(メリヤス類)	13,203	
	5位 (84) ボイラー・機械類	2,352		(95) 玩具・スポーツ用品	12,267	
	6位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	2,184		(62) アパレル(メリヤス類以外)	12,231	
	7位 (42) 皮革製品	1,883		(64) 履物・ゲートル	11,852	
上位赤字品目	1位 (88) 航空機	△ 1,365		(12) 採油用果実、飼料用植物等	△ 12,769	
	2位 (12) 採油用果実、飼料用植物等	△ 1,186		(88) 航空機	△ 4,966	
	3位 (47) 木材・パルプ	△ 619		(47) 木材・パルプ	△ 4,641	
	4位 (31) 肥料	△ 600		(98) 特殊取扱品	△ 3,849	
	5位 (02) 食用肉	△ 416		(52) 綿・綿織物	△ 2,725	
	6位 (38) 各種化学工業品	△ 394		(74) 銅・同製品	△ 2,604	
	7位 (74) 銅・同製品	△ 391		(38) 各種化学工業品	△ 2,172	

出所)・注) とも表8と同じ。

②中国全体の輸出では、2011年時点で従来からの伝統的輸出品目であった(95)玩具・スポーツ用品、(64)履物・ゲートルが圏外となったのに対して、米国向け輸出では依然として10位圏内に入っている。

③輸入では素材・中間財(加工品)・最終消費財の性格を併せ持つ(12)採油用種・果実、工業用・薬用植物、飼料用植物や、最終財・中間財(部品)型の(88)航空機が上位輸入品目に入っている。とりわけ、採油用種・果実、工業用・薬用植物、飼料用植物は米国からの輸入急増品目として注目され

る（なお、航空機は次にみるEUとの貿易でも主要な輸入品となっている）。

④輸入ではボイラー・機械類、電気機器が2000年、2011年とも1位、2位を占めているが、この11年間でシェアは急減している（前者は7.4ポイント減、後者は9.6ポイント減）。これは両品目とも両年の比重にあまり差がみられない中国全体の趨勢とは異なっている。

また主要黒字品目構成については、2011年時点でも(95)玩具・スポーツ用品、(64)履物・ゲートルが7位圏内に入っている点を除くと、中国全体の趨勢とあまり変わらない。主要赤字品目では(12)採油用種・果実、工業用・薬用植物、飼料用植物が最大の赤字品目となり、2位以下を大きく引き離していること、(88)航空機、ならびに素材・中間財(加工品)型の(47)木材・パルプ、および(52)綿・綿織物が上位赤字品目に名を連ねているなどが特徴となっている。

#### (イ) 中国—EU間貿易（表11）

中国—EU間貿易構造は中国全体の趨勢、あるいは対米国貿易構造とほぼ同じとなっている。ここでは中国全体、あるいは米国との異同の観点からみてみよう。

①輸出では比重差が縮まっているとはいえ、2000年、2011年とも(85)電気機器が1位、(84)ボイラー・機械類が2位を占めている。これは中国全体の趨勢と同じであるが、米国の場合とは順位が逆になっている。

②輸入では、2000年には電気機器に次いで2位であったボイラー・機械類が2011年には一躍首位に立っている。これは米国と同じであるが、中国全体の趨勢とは異なる。

③(88)航空機はほぼ一方的な赤字品目となっている。これは東アジア貿易にはみられない対米国・EU貿易に共通する特徴である。

④(87)鉄道・軌道用以外の車両の輸入が急増して、2011年には電気機器を抜いて2位に入った。同品目は米国からも増えてはいるが、EUからの輸入は米国からの輸入の5.1倍も多い。



表11 中国の対EU貿易

(単位：100万米ドル、%)

年	2000		2011	
輸出額	38,193	(100.0)	356,020	(100.0)
上位輸出品目	1位 (85) 電気機器	7,951 (20.8)	(85) 電気機器	81,408 (22.9)
	2位 (84) ボイラー・機械類	5,409 (14.2)	(84) ボイラー・機械類	73,910 (20.8)
	3位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	1,820 (4.8)	(61) アパレル(メリヤス類)	20,006 (5.6)
	4位 (95) 玩具・スポーツ用品	1,686 (4.4)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	19,525 (5.5)
	5位 (42) 皮革製品	1,518 (4.0)	(94) 家具・寝具・マットレス	14,695 (4.1)
	6位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	1,244 (3.3)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	9,493 (2.7)
	7位 (39) プラスチック	1,223 (3.2)	(95) 玩具・スポーツ用品	9,053 (2.5)
	8位 (29) 有機化学	1,204 (3.2)	(89) 船舶	8,986 (2.5)
	9位 (94) 家具・寝具・マットレス	1,174 (3.1)	(29) 有機化学	8,506 (2.4)
	10位 (73) 鉄鋼製品	1,142 (3.0)	(64) 履物・ゲートル	8,273 (2.3)
輸入額	30,845	(100.0)	211,193	(100.0)
上位輸入品目	1位 (85) 電気機器	9,012 (29.2)	(84) ボイラー・機械類	53,885 (25.5)
	2位 (84) ボイラー・機械類	8,270 (26.8)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	34,044 (16.1)
	3位 (87) 鉄道・軌道用以外の車両	1,249 (4.0)	(85) 電気機器	24,712 (11.7)
	4位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	1,238 (4.0)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	13,037 (6.2)
	5位 (29) 有機化学	966 (3.1)	(74) 銅・同製品	9,148 (4.3)
	6位 (39) プラスチック	928 (3.0)	(39) プラスチック	7,770 (3.7)
	7位 (44) 木材・同製品	660 (2.1)	(88) 航空機	6,661 (3.2)
	8位 (48) 紙・パルプ	520 (1.7)	(30) 薬品	6,335 (3.0)
	9位 (38) 各種化学工業品	504 (1.6)	(29) 有機化学	5,289 (2.5)
	10位 (88) 航空機	488 (1.6)	(73) 鉄鋼製品	3,213 (1.5)
上位黒字品目	1位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	1,802	(85) 電気機器	56,695
	2位 (95) 玩具・スポーツ用品	1,677	(84) ボイラー・機械類	20,024
	3位 (94) 家具・寝具・マットレス	1,058	(61) アパレル(メリヤス類)	19,729
	4位 (42) 皮革製品	1,509	(62) アパレル(メリヤス類以外)	18,759
	5位 (64) 履物・ゲートル	1,053	(94) 家具・寝具・マットレス	13,498
	6位 (61) アパレル(メリヤス類)	968	(95) 玩具・スポーツ用品	8,967
	7位 (73) 鉄鋼製品	850	(89) 船舶	8,556
上位赤字品目	1位 (84) ボイラー・機械類	△ 2,861	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	△ 27,502
	2位 (85) 電気機器	△ 1,061	(74) 銅・同製品	△ 8,422
	3位 (87) 鉄道・軌道用以外の車両	△ 649	(88) 航空機	△ 6,331
	4位 (88) 航空機	△ 446	(30) 薬品	△ 4,849
	5位 (48) 紙・パルプ	△ 399	(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 3,544
	6位 (30) 薬品	△ 383	(47) 木材・パルプ	△ 3,065
	7位 (41) 皮革	△ 354	(22) 飲料・アルコール	△ 1,912

出所)、注)とも表8と同じ。

⑤2000年に品目別貿易赤字額で1位、2位を占めたボイラー・機械類、電気機器が、2011年には一転してそれぞれ貿易黒字額で2位、1位となった。対米国貿易ではすでに2000年には両品目とも黒字化が達成されていたから、対EU貿易における両品目の黒字化は若干遅れたことになる。また黒字額は電気機器のほうがボイラー・機械類よりも大きい点で中国全体の趨勢や対米国貿易とは異なっている。

⑥2000年には貿易赤字額が3位であった(87)鉄道・軌道用以外の車両が、

2011年にはさらに赤字を増やして1位となり、2位以下を圧倒している。これは中国全体や米国にはみられない傾向である。

(ウ) 中国—日本間貿易 (表12)

輸出では2000年には金額が多い順に1位(62)アパレル(メリヤス類以外)、2位(85)電気機器、3位(61)アパレル(メリヤス類)、4位(84)ボイラー・機械類であったが、2011年になると中国全体の趨勢と同じく1位電気機器、2位ボイラー・機械類、3位アパレル(メリヤス類)、4位アパレル(メリヤス類以外)となった(5位(90)光学・映写・計量・医療器具、6位(94)家具・寝具・マットレスまでまったく順位が同じとなっている)。ただし細かくみると、1位と2位の比重は相対的に低く、また3位と4位に比重は相対的に高い。2000年に5位の(27)鉱物燃料・鉱物油、8位の(63)その他の紡織製品、9位の(64)履物・ゲートル、10位の(03)魚・甲殻類・軟体動物などは圏外となり、2011年には新たに6位に家具・寝具・マットレス、7位に(28)無機化学・貴金属等化合物、8位に(39)プラスチック、9位に(87)鉄道・軌道用以外の車両がランクインしている。

また輸入では2000年、2011年とも(85)電気機器が1位、(84)ボイラー・機械類が2位を占めているが、前者の比重の低下と、後者の比重の増加によって両者の格差は縮まっている。同期間に(87)鉄道・軌道用以外の車両、(90)光学・映写・計量・医療器具が比重・順位とも上げ、逆に素材・中間財(加工品)型の(55)人造短繊維・同織物、(54)人造長繊維・同織物は圏外となった。

中国の対日本貿易の黒字・赤字品目の構成を、中国全体の趨勢、あるいは対米国・EU貿易との異同の観点からみると、次の点を指摘することができる。

①すでにみたように、中国全体ならびに対米国・EU貿易では(85)電気機器、(84)ボイラー・機械類は品目別貿易収支において巨額の黒字を挙げているが、対日本貿易では逆に両品目とも巨額の赤字を計上している。日本

表12 中国の対日本貿易

(単位：100 万米ドル、%)

年	2000		2011	
輸出額	41,654	(100.0)	148,298	(100.0)
上位輸出品目	1位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	6,665 (16.0)	(85) 電気機器	30,210 (20.4)
	2位 (85) 電気機器	6,360 (15.3)	(84) ボイラー・機械類	23,767 (16.0)
	3位 (61) アパレル(メリヤス類)	4,502 (10.8)	(61) アパレル(メリヤス類)	10,937 (7.4)
	4位 (84) ボイラー・機械類	2,428 (5.8)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	10,283 (6.9)
	5位 (27) 鉱物燃料・鉱物油	1,969 (4.7)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	4,999 (3.4)
	6位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	1,470 (3.5)	(94) 家具・寝具・マットレス	4,297 (2.9)
	7位 (16) 肉・魚・甲殻類などの調製品	1,397 (3.4)	(28) 無機化学・貴金属等化合物	4,039 (2.7)
	8位 (63) その他の紡織製品	1,089 (2.6)	(39) プラスチック	3,749 (2.5)
	9位 (64) 履物・ゲートル	946 (2.3)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	3,333 (2.2)
	10位 (03) 魚・甲殻類・軟体動物など	906 (2.2)	(16) 肉・魚・甲殻類などの調製品	3,322 (2.2)
輸入額	41,512	(100.0)	194,590	(100.0)
上位輸入品目	1位 (85) 電気機器	12,667 (30.5)	(85) 電気機器	48,097 (24.7)
	2位 (84) ボイラー・機械類	8,153 (19.6)	(84) ボイラー・機械類	45,749 (23.5)
	3位 (72) 鉄鋼	2,803 (6.8)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	16,765 (8.6)
	4位 (39) プラスチック	2,592 (6.2)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	16,213 (8.3)
	5位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	2,421 (5.8)	(39) プラスチック	11,387 (5.9)
	6位 (29) 有機化学	1,927 (4.6)	(72) 鉄鋼	10,817 (5.6)
	7位 (87) 鉄道・軌道用以外の車両	1,271 (3.1)	(29) 有機化学	8,010 (4.1)
	8位 (55) 人造短繊維・同織物	824 (2.0)	(74) 銅・同製品	4,037 (2.1)
	9位 (54) 人造長繊維・同織物	807 (1.9)	(38) 各種化学工業品	3,276 (1.7)
	10位 (74) 銅・同製品	661 (1.6)	(73) 鉄鋼製品	2,838 (1.5)
上位黒字品目	1位 (62) アパレル(メリヤス類以外)	6,376	(61) アパレル(メリヤス類)	10,887
	2位 (61) アパレル(メリヤス類)	4,490	(62) アパレル(メリヤス類以外)	10,199
	3位 (27) 鉱物燃料・鉱物油	1,737	(94) 家具・寝具・マットレス	3,817
	4位 (16) 肉・魚・甲殻類などの調製品	1,395	(16) 肉・魚・甲殻類などの調製品	3,319
	5位 (63) その他の紡織製品	1,085	(28) 無機化学・貴金属等化合物	3,105
	6位 (64) 履物・ゲートル	938	(95) 玩具・スポーツ用品	2,694
	7位 (07) 食用野菜	850	(64) 履物・ゲートル	2,516
上位赤字品目	1位 (85) 電気機器	△ 6,306	(84) ボイラー・機械類	△ 21,982
	2位 (84) ボイラー・機械類	△ 5,725	(85) 電気機器	△ 17,887
	3位 (72) 鉄鋼	△ 2,267	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	△ 13,431
	4位 (39) プラスチック	△ 1,987	(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 11,214
	5位 (29) 有機化学	△ 1,575	(72) 鉄鋼	△ 7,647
	6位 (90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 951	(39) プラスチック	△ 7,638
	7位 (54) 人造長繊維・同織物	△ 787	(29) 有機化学	△ 5,057

出所)、注) とも表8と同じ。

に対しては2000年は電気機器の貿易収支赤字額が最も多かったが、2011年になると両者の順位は逆転しボイラー・機械類の貿易収支の赤字額が最も多くなっている。しかも両品目の赤字額は拡大傾向にある。後でみるように、中国はNIEsの韓国や台湾、ASEAN[4]のマレーシアやタイに対しても電気機器やボイラー・機械類は赤字を計上している。その意味で、これら2品目の貿易収支が黒字か否かが対米国・EU貿易と対東アジア貿易との決定的な相違点であるといえる。

②米国やEUの場合と同じく、2011年時点でも主要輸出品目、あるいは主要黒字品目として(95)玩具・スポーツ用品、(64)履物・ゲートルが名前を連ねている。これらは他の東アジア地域にはみられない。

③日本に対する主要黒字品目として(16)肉・魚・甲殻類等の調製品があるが、これら食品類の輸出は東アジアに共通している（たとえば、台湾への(16)肉・魚・甲殻類等の調製品、台湾・韓国への(03)魚・甲殻類・軟体動物など、マレーシアへの(07)食用野菜等）。

#### (エ) 中国—韓国間貿易（表13）

現在、中国にとって韓国は台湾に次いで2番目に貿易収支赤字が多い国であり（2011年に中国は台湾に対して898.1億米ドルの赤字、韓国に対して797.9億米ドルの赤字）、また韓国にとって中国は最大の貿易収支黒字をあげている国となっている（2011年時点で477.5億ドルの黒字）<sup>(10)</sup>。

表13によれば、2000年、2011年とも輸出入において(85)電気機器が首位を占め、しかも両期間に比重は輸出では17.2%から28.3%へと10.1ポイント増、輸入では21.9%から33.8%へと11.9ポイント増を記録している。そのため、輸出入とも2位以下との比重差は拡大している。これは、台湾との貿易でも当てはまる（参考表9、参照）。その意味で、中国—韓国間貿易（ならびに中国—台湾間貿易）は(85)電気機器を基軸に展開しているといえる。

対韓国貿易の特徴を対日本・台湾貿易との異同という観点からみると、次の点が指摘できる。

①先にみたように、対日本貿易収支で最大の赤字品目は、2000年は(85)電気機器、2011年は(84)ボイラー・機械類であった。それに対して、対韓国貿易収支で最大の赤字品目は2000年、2011年とも電気機器で、これは台湾とも共通している。また、対韓国・台湾貿易で2番目に多い赤字品目はそれぞれ2000年には(39)プラスチック、もしくはボイラー・機械類であったのが、2011年にはいずれも新たにランクインした(90)光学・映写・計量・医療器具に取って代わられている。対日本貿易とは異なり、ボイラー・機

表13 中国の対韓国貿易

(単位：100 万米ドル、%)

年	2000			2011			
輸出額		11,293	(100.0)		82,924	(100.0)	
上位輸出品目	1位	(85) 電気機器	1,942	(17.2)	(85) 電気機器	23,472	(28.3)
	2位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	972	(8.6)	(84) ボイラー・機械類	8,771	(10.6)
	3位	(72) 鉄鋼	749	(6.6)	(72) 鉄鋼	8,435	(10.2)
	4位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	701	(6.2)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	4,230	(5.1)
	5位	(10) 穀物	640	(5.7)	(73) 鉄鋼製品	3,012	(3.6)
	6位	(84) ボイラー・機械類	606	(5.4)	(29) 有機化学	2,806	(3.4)
	7位	(55) 人造長繊維・同織物	428	(3.8)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	2,390	(2.9)
	8位	(61) アパレル(メリヤス類)	419	(3.7)	(89) 船舶	2,069	(2.5)
	9位	(03) 魚・甲殻類・軟体動物など	410	(3.6)	(62) アパレル(メリヤス類以外)	1,865	(2.2)
	10位	(86) 鉄道・軌道用機関車・車両	383	(3.4)	(28) 無機化学・貴金属等化合物	1,778	(2.1)
輸入額		23,207	(100.0)		162,709	(100.0)	
上位輸入品目	1位	(85) 電気機器	5,088	(21.9)	(85) 電気機器	54,963	(33.8)
	2位	(39) プラスチック	2,632	(11.3)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	25,248	(15.5)
	3位	(29) 有機化学	2,136	(9.2)	(84) ボイラー・機械類	17,060	(10.5)
	4位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	2,016	(8.7)	(29) 有機化学	12,769	(7.8)
	5位	(84) ボイラー・機械類	1,989	(8.6)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	12,724	(7.8)
	6位	(72) 鉄鋼	1,818	(7.8)	(39) プラスチック	11,583	(7.1)
	7位	(54) 人造長繊維・同織物	997	(4.3)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	4,988	(3.1)
	8位	(41) 皮革	867	(3.7)	(72) 鉄鋼	4,733	(2.9)
	9位	(48) 紙・パルプ	770	(3.3)	(74) 銅・同製品	2,642	(1.6)
	10位	(55) 人造長繊維・同織物	734	(3.2)	(28) 無機化学・貴金属等化合物	1,570	(1.0)
上位黒字品目	1位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	661		(72) 鉄鋼	3,702	
	2位	(10) 穀物	640		(89) 船舶	1,915	
	3位	(61) アパレル(メリヤス類)	405		(73) 鉄鋼製品	1,780	
	4位	(86) 鉄道・軌道用機関車・車両	383		(62) アパレル(メリヤス類以外)	1,756	
	5位	(03) 魚・甲殻類・軟体動物など	343		(61) アパレル(メリヤス類)	1,427	
	6位	(28) 無機化学・貴金属等化合物	150		(03) 魚・甲殻類・軟体動物など	1,080	
	7位	(52) 綿・綿織物	129		(68) セメント類	821	
上位赤字品目	1位	(85) 電気機器	△ 3,147		(85) 電気機器	△ 31,491	
	2位	(39) プラスチック	△ 2,553		(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 21,019	
	3位	(29) 有機化学	△ 1,860		(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 10,334	
	4位	(84) ボイラー・機械類	△ 1,383		(39) プラスチック	△ 10,227	
	5位	(72) 鉄鋼	△ 1,069		(29) 有機化学	△ 9,963	
	6位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 1,044		(84) ボイラー・機械類	△ 8,290	
	7位	(54) 人造長繊維・同織物	△ 870		(87) 鉄道・軌道用以外の車両	△ 3,616	

出所)、注) とも表8と同じ。

械類は対韓国・台湾貿易とも順位を下げて赤字品目の5位もしくは6位にランクされるにすぎなくなっている。

②品目別貿易収支では2000年には赤字品目5位に入っていた(72)鉄鋼が2011年には黒字品目で一躍首位に立ったほか、(89)船舶、(73)鉄鋼製品が新たに黒字品目2位、3位にランクインしている。これら3品目は対日本・台湾ではいずれも上位黒字品目には入っていない。むしろ、日本に対して鉄鋼は赤字品目5位にランクされている。

③中国は対日本では(87)鉄道・軌道用以外の車両は2000年、2011年とも上位赤字品目であるが、2011年には韓国に対しても新たに上位赤字品目にランクインされるようになった。この品目は台湾に対しては逆に上位黒字品目にランクされている。

(オ) 中国—マレーシア間貿易 (表14)

中国の対マレーシアとの貿易の特徴は、次の点を指摘することができよう。

表14 中国の対マレーシア貿易

		2000		2011	
年		2,565	(100.0)	27,890	(100.0)
輸出額		2,565	(100.0)	27,890	(100.0)
上位輸出品目	1位	(85) 電気機器	927 (36.1)	(85) 電気機器	6,214 (22.3)
	2位	(10) 穀物	233 (9.1)	(84) ボイラー・機械類	4,125 (14.8)
	3位	(84) ボイラー・機械類	222 (8.7)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	1,882 (6.7)
	4位	(72) 鉄鋼	60 (2.3)	(94) 家具・寝具・マットレス	1,006 (3.6)
	5位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	58 (2.3)	(61) アパレル(メリヤス類)	948 (3.4)
	6位	(28) 無機化学・貴金属等化合物	58 (2.3)	(73) 鉄鋼製品	899 (3.2)
	7位	(61) アパレル(メリヤス類)	51 (2.0)	(39) プラスチック	818 (2.9)
	8位	(52) 綿・綿織物	51 (2.0)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	801 (2.9)
	9位	(73) 鉄鋼製品	48 (1.8)	(72) 鉄鋼	791 (2.8)
	10位	(55) 人造短繊維・同織物	43 (1.7)	(07) 食用野菜	643 (2.3)
輸入額		5,480	(100.0)	62,145	(100.0)
上位輸入品目	1位	(85) 電気機器	2,097 (38.3)	(85) 電気機器	34,385 (55.3)
	2位	(84) ボイラー・機械類	787 (14.4)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	5,535 (8.9)
	3位	(44) 木材・同製品	637 (11.6)	(15) 動植物性油脂	4,602 (7.4)
	4位	(15) 動植物性油脂	396 (7.2)	(84) ボイラー・機械類	4,575 (7.4)
	5位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	361 (6.6)	(40) ゴム・同製品	3,808 (6.1)
	6位	(39) プラスチック	294 (5.4)	(74) 銅・同製品	1,553 (2.5)
	7位	(38) 各種化学工業品	119 (2.2)	(39) プラスチック	1,462 (2.4)
	8位	(29) 有機化学	110 (2.0)	(29) 有機化学	1,187 (1.9)
	9位	(40) ゴム・同製品	104 (1.9)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	947 (1.5)
	10位	(74) 銅・同製品	78 (1.4)	(26) 鉱石・スラグ・灰	749 (1.2)
上位黒字品目	1位	(10) 穀物	233	(94) 家具・寝具・マットレス	937
	2位	(28) 無機化学・貴金属等化合物	48	(61) アパレル(メリヤス類)	937
	3位	(64) 履物・ゲートル	36	(90) 光学・映写・計量・医療器具	935
	4位	(52) 綿・綿織物	33	(73) 鉄鋼製品	761
	5位	(08) 食用果実・ナッツ	28	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	679
	6位	(95) 玩具・スポーツ用品	24	(07) 食用野菜	643
	7位	(20) 野菜・果実	23	(72) 鉄鋼	625
上位赤字品目	1位	(85) 電気機器	△ 1,170	(85) 電気機器	△ 28,171
	2位	(44) 木材・同製品	△ 626	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 5,151
	3位	(84) ボイラー・機械類	△ 566	(15) 動植物性油脂	△ 4,589
	4位	(15) 動植物性油脂	△ 393	(40) ゴム・同製品	△ 3,438
	5位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 340	(74) 銅・同製品	△ 1,329
	6位	(39) プラスチック	△ 265	(26) 鉱石・スラグ・灰	△ 745
	7位	(40) ゴム・同製品	△ 96	(29) 有機化学	△ 692

出所)、注) とも表8と同じ。

①中国—マレーシア間貿易では(85)電気機器を軸にして貿易が展開している。とくに輸入では電気機器の比重が2000年の38.3%から2011年には55.3%にまで上昇した。今までみてきた国・地域のなかで、輸出入のどちらか一方において1品目だけで過半を占めるのは例がなかった。

②(90)光学・映写・計量・医療器具、(87)鉄道・軌道用以外の車両が上位黒字品目に計上されている。これは、対タイ貿易についてもあてはまり(参考表10, 参照)、また対台湾貿易では鉄道・軌道用以外の車両について当てはまるだけである(参考表9, 参照)。この2品目の貿易収支に関しては、これまでみてきた米国・EU・日本・韓国との貿易ではすべて中国側の貿易赤字品目であった。

③(44)木材・同製品が2000年には輸入品目中3位で、全輸入の14.4%を占めていたが、2011年にはランク外になる一方で<sup>(11)</sup>、工業化に必要な燃料・素材型の(27)鉱物燃料・鉱物油、(15)動植物性油脂、(40)ゴム・同製品、(74)銅・同製品の比重は上昇している。一般的にいて、マレーシア・タイには原燃料関連の輸入が多い。

以上不十分ながら、中国側の統計資料に基づいて中国の貿易を数量的に検討してきた。そこにはいくつかの発見があった。しかしながら、それらを総体的に捉え直して考察・検討するまでには至っていない。また周知のように中国の貿易の過半は外資企業が占め、そして中国企業も対外直接投資を積極的に展開しているが、ここではそれらと中国貿易との関連についてはまったく触れてはいない。これらについては今後の課題にしたい。

#### (補論) 中国に関わる貿易統計上の乖離問題

##### (1) 貿易統計上の2種類の乖離

中国に関わる貿易統計上の乖離は2種類ある。

ひとつは、中国側統計と貿易相手国側統計との乖離である(以下では、

便宜上、中国の貿易相手国を第三国と表現する)。本論で述べたように、中国および第三国ともに自国の輸入額が相手国側の輸出額の1.1倍をかなり上回っている。

もうひとつの乖離は香港側統計と貿易相手国側統計との乖離、すなわち香港・中国間、ならびに香港・第三国間の貿易統計上の乖離である。これについては、2011年を例にいくつかみてみよう<sup>(12)</sup>。

#### ①香港・中国間の貿易統計上の乖離

香港側統計によれば中国への輸出は1兆7,473.6億香港ドル(期中平均レート1米ドル=7.784香港ドルで算出すると、2,244.8億米ドルとなる。以下、同じ)、中国からの輸入は1兆6,968.1億香港ドル(2,179.9億米ドル)であった。香港・中国間の貿易収支は香港側の505.5億香港ドル(64.9億米ドル)の黒字であった。

それに対して、表7でみたように、中国側統計では香港への輸出は2,680.3億米ドル、香港からの輸入は155.0億米ドルであった。中国・香港間貿易収支は実に中国の2,525.3億ドルの黒字であった。

ここでは、中国側統計では香港からの輸入が少ないこと、逆にいえば香港側統計では中国への輸出が多く計上されていることによって乖離が発生している。

#### ②香港・米国間の貿易統計上の乖離

香港側統計によれば米国への輸出は3,307.7億香港ドル(424.9億米ドル)、米国からの輸入は2,113.7億香港ドル(271.5億米ドル)であった。香港・米国間の貿易収支は香港側の1,194.0億香港ドル(153.4億米ドル)の黒字であった。

それに対して、米国側の統計では米国の香港向け輸出は364.5億米ドル、香港からの輸入は44.0億米ドルで、米国側が320.5億米ドルの黒字であった。

ここでは、米国側統計では香港からの輸入が少なく、そして香港側統計では米国への輸出が多いことによって乖離が発生している。



### ③香港・日本間の貿易統計上の乖離

香港側統計によれば、日本への輸出が1,351.6億香港ドル（173.6億米ドル）、日本からの輸入が3,186.0億香港ドル（409.3億米ドル）であった。輸入は輸出の2.36倍もあり、香港側の1,834.5億香港ドル（235.7億米ドル）の赤字であった。

それに対して、日本側統計では日本の香港向け輸出は428.3億米ドル、香港からの輸入は15.4億米ドルであった。輸出は輸入の27.8倍もあり、日本側の412.9億米ドルの黒字であった。

ここでも乖離は、日本側統計では香港からの輸入が少なく、逆に香港側統計では日本への輸出が多いことによって発生している。

こうした2種類の貿易上の乖離、すなわち、一方で中国・第三国間貿易において中国および第三国ともに自国の輸入額が相手国側の輸出額の1.1倍をかなり上回っていることと、他方で香港・中国間、香港・第三国間貿易において中国・第三国側では香港からの輸入が極めて少ないこと（逆にいえば、香港側では中国・第三国への輸出が多いこと）とは密接に関連していると思われる。なぜならば、後者の乖離は前者の乖離を縮小させる作用を伴っているからである。

### (2) 香港を中継港とする中国・第三国間貿易

香港側の統計によれば、2011年の香港の輸出額は3兆3,372.5億香港ドルであるが、そのうち再輸出は3兆2,715.9億香港ドル、98.0%を占めており、地場輸出はわずか656.6億香港ドル、2.0%にすぎない（輸入は3兆7,646.0億香港ドル）。香港の輸出はもっぱら再輸出で占められていることになる。そして、この再輸出のうち中国向けが1兆7,166.6億香港ドル、52.5%を占め、また中国を調達先とするのが2兆0,150.5億香港ドル、61.6%を占めている<sup>(13)</sup>。

香港の再輸出を(ア)再輸出先別、(イ)調達先別にみると、(ア)では中国向け再輸出1兆7,166.6億香港ドルのうち調達を中国自身とするのが46.5%を

占め、以下、台湾11.0%、日本10.8%、韓国6.0%、米国4.2%が続いている。さらに、米国向け再輸出3,236.1億香港ドルのうち89.1%が、日本向け再輸出1,336.1億香港ドルのうち89.6%が中国を調達先とするなど、調達先はすべて中国が1位を占めている。また(イ)では中国を調達先とする再輸出2兆0,150.5億香港ドルの再輸出先は中国自身が39.6%を占め、以下、米国14.3%、日本5.9%、ドイツ4.1%、イギリス2.6%が続いている。さらに調達先を日本とする再輸出2,203.8億香港ドルのうち84.2%が、台湾を調達先とする再輸出2,117.6億香港ドルのうち88.9%が、調達先を韓国とする再輸出1,191.2億香港ドルのうち86.3%が中国向けであるなど、すべて再輸出先は中国が1位を占めている<sup>(14)</sup>。

ここで確認できることは、香港の場合は自らの再輸出について再輸出先別・調達先別の統計を正確に作成していること、ならびに香港の再輸出は中国を軸にして展開していることである。

したがって、上述の乖離は、香港を中継港とする中国・第三国間貿易、すなわち①中国を調達先とする香港の第三国向け再輸出、ならびに②第三国を調達先とする香港の中国向け再輸出に関して、中国と第三国がそれぞれ香港とは異なる統計上の処理をしていることによるものではないかと推測することができる。しかも、香港・中国間、香港・第三国間貿易において中国・第三国側ではいずれも香港からの輸入が極めて少ないことからみて、①中国を調達先とする第三国向け再輸出について中国側は香港への輸出、第三国側は中国からの輸入として統計処理し、また②第三国を調達先とする中国向け再輸出について第三国側は香港への輸出、中国側は第三国からの輸入として統計処理しているのではないかと推測することはあながち的外れではないであろう。

ここではそれを全面的に検討することはできないが、一例として2011年における香港を中継港とする中国・日本間貿易を取り上げることによって検証してみたい。

ここで確認のために繰り返すことになるが、(ア)中国側統計資料によれば、中国の対日本輸出は1,483.0億米ドル、輸入は1,945.9億米ドルで、中国側の462.9億米ドルの赤字であった。(イ)日本側資料によれば、日本の対中国輸出は1,614.7億米ドル、輸入は1,834.9億米ドルで、日本側の220.2億米ドルの赤字であった。(ウ)日本側資料によれば、日本の対香港輸出は428.3億米ドル、輸入は15.4億米ドルで、日本の412.9億米ドルの黒字であった。(エ)香港側資料によれば、(期中平均1米ドル=7.784香港ドルで換算すると)香港の対日本輸出は173.6億米ドル、輸入は409.3億米ドルで、香港側の235.7億米ドルの赤字であった。

中国、香港、日本の貿易統計はともに輸出はFOB価格、輸入はCIF価格で計上される。既述のように、自国の輸入額(CIF価格)は通常、相手国側の輸出額(FOB価格)の1.1倍に相当するとされるので、計算上は①中国の対日本輸出の1.1倍(1,483.0億米ドル $\times$ 1.1)=1,631.3億米ドルと日本の対中国輸入1,834.9億米ドルが、②日本の対中国輸出の1.1倍(1,614.7億米ドル $\times$ 1.1)=1,776.2億米ドルと中国の対日本輸入1,945.9億米ドルが、③日本の対香港輸出の1.1倍(428.3億米ドル $\times$ 1.1)=471.1億米ドルと香港の対日本輸入409.3億米ドルが、④香港の対日本輸出の1.1倍(173.6億米ドル $\times$ 1.1)=191.0億米ドルと日本の対香港輸入15.4億米ドルがそれぞれ対応して近似するはずであるが(実際には、統計上の誤差脱漏その他によって等しくなることはない)、いずれも乖離幅は大きい。

ところで、同年(2011年)における香港の再輸出のうち中国向け再輸出額1兆7,166.6億香港ドル(2,205.4億米ドル)のうち、日本を調達先とするのが1,855.6億香港ドル(238.4億米ドル)、また香港の日本向け再輸出1,336.2億香港ドル(171.7億米ドル)のうち、中国を調達先とするのが1,197.3億香港ドル(153.8億米ドル)であった<sup>(15)</sup>。ここで、(ア)日本を調達先とする中国向け再輸出額(238.4億米ドル)を、日本側統計では香港への輸出、中国側統計では日本からの輸入として処理し、また(イ)中国を調達先とする日本向け再輸

出額(153.8億米ドル)を、中国側統計では香港への輸出、日本側統計では中国からの輸入として処理していると仮定し、それらを香港の統計と同じように処理しなおすと、上述の貿易は次のようになる(計算が煩瑣になるので、ここではいちいちFOB価格換算やCIF価格換算はせず、香港側統計の輸出入額をそのまま当てはめている)。

その結果、①中国の対日本輸入は中国側統計よりも238.4億米ドル減って1,707.5億米ドルになる。②日本の中国からの輸入は153.8億米ドル減って1,681.1億米ドルになる。③日本の香港からの輸入は153.8億米ドル増えて169.2億米ドルになる。

これらをそれぞれの統計資料に当てはめれば次のようになる。

(ア)中国の対日本輸出は1,483.0億米ドル、輸入は1,707.5億米ドルで、中国側の222.5億米ドルの赤字となる。(イ)日本の対中国輸出は1,614.7億米ドル、輸入は1,681.1億米ドルで、日本側の66.4億米ドルの赤字となる。(ウ)日本の対香港輸出は428.3億米ドル、輸入は169.2億米ドルで、日本側の259.1億米ドルの黒字となる。(エ)(統計処理する必要がないので、前述のように)香港の対日本輸出は173.6億米ドル、輸入は409.3億米ドルで香港側の235.7億米ドルの赤字であった。

したがって、中国と日本の貿易統計を処理すると、計算上は①中国の対日輸出の1.1倍(1,483.0億米ドル $\times$ 1.1)=1,631.3億米ドルと日本の対中国輸入1,681.1億米ドルが、②日本の対中国輸出の1.1倍(1,614.7億米ドル $\times$ 1.1)=1,776.2億米ドルと中国の対日本輸入1,705.5億米ドルが、③日本の対香港輸出の1.1倍(428.3億米ドル $\times$ 1.1)=471.1億米ドルと香港の対日本輸入409.3億米ドルが、④香港の対日本輸出の1.1倍(173.6億米ドル $\times$ 1.1)=191.0億米ドルと日本の対香港輸入169.2億米ドルがそれぞれ対応して、いずれも近似ないし乖離が緩和するようになっている。とりわけ、①と②の中国・日本間貿易は3～4%内外の誤差にとどまっている。日本・香港間貿易では乖離率は相対的に高いが(③は前提では全く統計処理する必要のない部門で乖離率

が15%程度であるのに対して、処理した④の乖離率はそれよりも低く、13%程度である)、処理前と比べてその乖離率はだいぶ小さくなっている。

中国・米国間貿易や中国・韓国間貿易も同じ統計上の処理をすると、中国・米国間貿易の乖離と香港・米国間貿易の乖離、ならびに中国・韓国間貿易の乖離と香港・韓国間貿易の乖離がかなりの程度で同時に緩和されることになる。

以上のことから、(ア)第三国を調達先とする香港の中国向け再輸出は第三国側統計では香港への輸出として、中国側統計では第三国からの輸入として処理し、また(イ)中国を調達先とする第三国向け再輸出は中国側統計では香港への輸出として、第三国側統計では中国からの輸入として処理しているのではないかと推測することができる。そして、それらを統計的に再処理することは中国・香港・第三国間の貿易統計上の乖離を緩和ないし解消し、中国の貿易構造や中国・第三国間の貿易構造の実態をより正確に把握することにつながるのではなからうか。

(注)

- (1) GDPの数値については、総務省統計局のWebサイト (<http://www.stat.go.jp/>) より(ただし、原資料はUN、*National Accounts Main Aggregates Database*)、また輸出額については国際貿易投資研究所のWebサイト (<http://www.iti.or.jp/>) より(ただし、原資料はIMF、*International Financial Statistics*, Oct.2012) 引用。
- (2) EU(欧州連合)は1958年発足のEC(欧州経済共同体)を母体として1993年に英国・ドイツ・フランス・イタリアなど12カ国で発足した共同体組織で、その後加盟国が増えて2007年以降は27カ国から構成されている。またNAFTA(北米自由貿易協定)は米国・カナダ・メキシコの3カ国で締結され1994年に発効した自由貿易協定である。EUは関税同盟であることから加盟各国間で共通の域外関税を設定しているのに対して、NAFTAは自由貿易協定であることから域外関税に関しては加盟各国の自由裁量に任せ対外共通関税を設定していないという点で、EUとNAFTAとの間に違いがあるものの、域内貿易の拡大を図るために域内関税を撤廃するという点では両者とも共通している。

- (3) 東アジアでは1993年にASEAN自由貿易地域(AFTA)が発足した。さらにASEANと他の1カ国との間のレベルでは、2005年ASEAN・中国自由貿易協定(ACFTA)、2007年ASEAN・韓国自由貿易協定(AKFTA)、2008年ASEAN・日本包括的経済連携協定(AJCEP)、2010年ASEAN・オーストラリア・ニュージーランド自由貿易協定(AANZFTA)、ASEAN・インド自由貿易協定(AIFTA)が発効するなど、2000年代後半以降に「ASEAN+1」の自由貿易協定等が続々と締結され、また2国間レベルでは2010年中国・台湾間で経済協力枠組み協定(FCFA)、2011年日本・台湾間で投資協定などが発効されてはいる。だが包括的な協定となると、日本・中国・韓国間の自由貿易協定や「ASEAN+3(日本・中国・韓国)」、あるいは「ASEAN+6(「ASEAN+3」+オーストラリア、ニュージーランド、インド)での包括的経済連携協定等についてはせいぜい交渉が開始されたばかりであり、まだ締結をみていない(以上については、『日本経済新聞』2012年8月10日、朝刊、同8月12日、朝刊、などを参照)。なお、東アジアの地域統合については、平川均・石川幸一・小原篤次・小林尚朗編著『東アジアのグローバル化と地域統合—新・東アジア経済論Ⅲ—』ミネルヴァ書房、2007年、西澤信善・北原淳編著『東アジア経済の変容—通貨危機後10年の回顧—』見洋書房、2009年、坂田幹男・唱新編著『東アジアの地域経済連携と日本』見洋書房、2012年、等を参照されたい。
- (4) ジェトロ『ジェトロ貿易投資白書』各年版、同『ジェトロ世界貿易投資報告』各年版によれば、世界貿易マトリクスからみたEUの域外貿易収支は1999年までと2001～2004年は黒字であったが、2000年ならびに2004年以降は赤字となっている。
- (5) 経済産業省編『通商白書』2007年版では地域別・財別貿易構造の分析を通じて、(ア)東アジアでは中間財を相互に供給する工程間分業経済圏が形成されている(日本・NIEsは高機能部品供給、中国・ASEANは汎用性部品供給)、また(イ)日本・NIEsと中国・ASEANと欧米・日本の間には三角貿易が形成されている(日本・NIEsが<資本集約型>部品・素材→中国・ASEANが<労働集約型>加工・組立→<最終消費地>欧米・日本に最終財輸出)、という<三角貿易+中間財相互供給>論を展開している(同書第2章「東アジア事業ネットワークの拡大と深化」参照)。
- (6) (4)と同じ。なお、ここでは東アジアとは中国、韓国、台湾、ASEANを指している。
- (7) 中華人民共和国海関総署『海関統計年鑑』各年版、参照。
- (8) 以下の統計数値については、前掲『ジェトロ世界貿易投資報告』2012年版、

参照。

- (9) 今日、経済産業省編『経済白書』などでは、世界と東アジアの貿易構造を分析する際に独立行政法人経済産業研究所(RIETI)が貿易財を国別・年別・産業別(13分類)・生産工程別(素材、中間財<加工品、部品>、最終財<資本財、消費財>の5段階)に作成した資料を利用している。本稿で利用しているHS2ケタ分類では、貿易品目を財別・生産段階別に厳密には分類することができないという問題点がある。
- (10) (8)と同じ。
- (11) 中華人民共和国海関総署『海関統計』2011年12月(56ページ)によれば、中国のマレーシアからの木材・同製品の輸入は3億6,506万米ドルで、全輸入のわずか0.6%を占めるにすぎなくなっている。
- (12) (8)と同じ。
- (13) 香港特別行政区政府統計処『香港統計年鑑』2012年版、67ページ。
- (14) 香港特別行政区政府統計処『香港対外商品貿易』2011年12月、153~156ページ参照。
- (15) 同上。

参考表1 世界貿易マトリクスからみた韓国の貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	174 (0.9)	303 (1.6)	678 (2.0)	1,313 (2.6)	1,718 (2.7)	2,839 (2.7)	3,602 (2.6)
米国	46 (26.5)	108 (35.6)	194 (28.6)	243 (18.5)	378 (22.0)	414 (14.6)	448 (12.4)
E U	30 (16.9)	36 (12.0)	102 (15.0)	175 (13.3)	247 (14.4)	386 (13.6)	494 (13.7)
日本	30 (17.4)	45 (15.0)	126 (18.6)	170 (13.0)	205 (11.9)	222 (7.8)	248 (6.9)
東アジア	21 (12.3)	32 (10.7)	101 (14.8)	402 (30.6)	553 (32.1)	1,183 (41.7)	1,559 (43.3)
中国	—	—	—	91 (7.0)	185 (10.7)	699 (24.6)	930 (25.8)
NIEs	13 (7.3)	22 (7.3)	68 (10.0)	213 (16.2)	244 (14.2)	318 (11.2)	415 (11.5)
台湾	2 (1.1)	2 (0.5)	12 (1.8)	39 (3.0)	81 (4.7)	119 (4.2)	136 (3.8)
香港	8 (4.7)	16 (5.2)	38 (5.6)	107 (8.1)	107 (6.2)	121 (4.3)	162 (4.5)
シンガポール	3 (1.5)	5 (1.6)	18 (2.7)	67 (5.1)	56 (3.3)	78 (2.8)	116 (3.2)
ASEAN[4]	9 (5.0)	10 (3.4)	33 (4.8)	98 (7.5)	124 (7.2)	167 (5.9)	215 (6.0)
タイ	2 (0.9)	1 (0.5)	10 (1.4)	24 (1.8)	20 (1.2)	35 (1.2)	49 (1.3)
マレーシア	2 (1.1)	4 (1.5)	7 (1.0)	30 (2.2)	35 (2.0)	51 (1.8)	65 (1.8)
フィリピン	2 (0.9)	2 (0.8)	5 (0.7)	15 (1.1)	34 (2.0)	33 (1.2)	43 (1.2)
インドネシア	4 (2.1)	2 (0.6)	11 (1.6)	30 (2.3)	35 (2.0)	47 (1.6)	58 (1.6)
合計	194 (1.1)	214 (1.1)	592 (1.8)	1,192 (2.3)	1,455 (2.3)	2,381 (2.3)	3,237 (2.4)
米国	47 (24.2)	60 (27.9)	144 (24.3)	254 (21.3)	273 (18.8)	277 (11.6)	347 (10.7)
E U	14 (7.4)	24 (11.1)	83 (14.0)	163 (13.7)	151 (10.4)	253 (10.6)	341 (10.5)
日本	54 (27.8)	72 (33.5)	175 (29.6)	313 (26.2)	307 (21.1)	467 (19.6)	545 (16.8)
東アジア	16 (8.2)	28 (13.3)	81 (13.6)	215 (18.0)	339 (23.3)	701 (29.4)	1,008 (31.1)
中国	—	—	—	67 (5.6)	113 (7.8)	351 (14.7)	556 (17.2)
NIEs	8 (4.0)	11 (5.0)	43 (7.3)	86 (7.2)	127 (8.7)	198 (8.3)	254 (7.8)
台湾	3 (1.4)	3 (1.2)	12 (2.1)	26 (2.2)	39 (2.7)	56 (2.3)	78 (2.4)
香港	2 (1.2)	5 (2.5)	19 (3.2)	28 (2.4)	38 (2.6)	62 (2.6)	70 (2.2)
シンガポール	3 (1.5)	3 (1.3)	12 (2.0)	32 (2.7)	49 (3.4)	81 (3.4)	106 (3.3)
ASEAN[4]	8 (4.2)	18 (8.3)	33 (5.7)	62 (5.2)	100 (6.9)	152 (6.4)	199 (6.1)
タイ	0 (0.0)	1 (0.6)	4 (0.7)	8 (0.7)	13 (0.9)	22 (0.9)	30 (0.9)
マレーシア	3 (1.4)	9 (4.2)	14 (2.3)	20 (1.7)	32 (2.2)	51 (2.1)	69 (2.1)
フィリピン	2 (1.0)	1 (0.4)	2 (0.4)	4 (0.4)	12 (0.8)	13 (0.5)	17 (0.5)
インドネシア	3 (1.5)	7 (3.1)	14 (2.3)	291 (2.4)	43 (3.0)	66 (2.8)	83 (2.6)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所)、注)とも表3と同じ。



参考表2 世界貿易マトリクスからみた台湾の貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	198 [1.1]	307 [1.6]	672 [2.0]	1,117 [2.2]	1,483 [2.3]	1,890 [1.8]	2,467 [1.8]
米国	67 (34.1)	147 (48.1)	217 (32.4)	264 (23.7)	348 (23.5)	284 (15.1)	321 (13.0)
E U	31 (15.5)	29 (9.4)	117 (17.4)	150 (13.4)	228 (15.3)	219 (11.6)	270 (10.9)
日本	22 (11.0)	35 (11.3)	83 (12.4)	132 (11.8)	166 (11.2)	144 (7.6)	159 (6.5)
東アジア	34 (17.0)	46 (15.1)	166 (24.6)	430 (38.5)	559 (37.7)	990 (52.4)	1,371 (55.6)
中国	—	—	0	4 (0.3)	42 (2.8)	408 (21.6)	624 (25.3)
NIEs	24 (11.9)	37 (12.0)	120 (17.8)	331 (29.6)	407 (27.4)	438 (23.2)	563 (22.8)
韓国	3 (1.3)	3 (0.8)	12 (1.8)	26 (2.3)	39 (2.6)	56 (2.9)	78 (3.2)
香港	15 (7.8)	25 (8.3)	86 (12.7)	261 (23.3)	313 (21.1)	306 (16.2)	380 (15.4)
シンガポール	5 (2.8)	9 (2.9)	22 (3.3)	44 (3.9)	55 (3.7)	76 (4.0)	105 (4.3)
ASEAN [4]	10 (5.2)	9 (3.1)	46 (6.8)	95 (8.5)	109 (7.4)	144 (7.6)	184 (7.5)
タイ	2 (0.9)	2 (0.8)	14 (2.1)	31 (2.8)	26 (1.7)	37 (2.0)	52 (2.1)
マレーシア	2 (0.9)	2 (0.6)	11 (1.6)	29 (2.6)	36 (2.4)	41 (2.2)	54 (2.2)
フィリピン	2 (1.0)	2 (0.8)	8 (1.2)	17 (1.5)	30 (2.0)	42 (2.2)	49 (2.0)
インドネシア	5 (2.4)	3 (0.9)	12 (1.9)	19 (1.7)	17 (1.2)	23 (1.2)	29 (1.2)
合計	177 [1.0]	180 [1.0]	492 [1.5]	932 [1.8]	1,260 [2.0]	1,636 [1.6]	1,973 [1.4]
米国	42 (23.7)	42 (23.5)	114 (23.0)	187 (20.1)	226 (17.9)	189 (11.6)	239 (12.1)
E U	15 (8.6)	20 (11.1)	74 (15.0)	137 (14.7)	143 (11.3)	157 (9.6)	179 (9.1)
日本	48 (27.1)	50 (27.6)	144 (29.2)	272 (29.2)	347 (27.5)	414 (25.3)	413 (21.0)
東アジア	17 (9.4)	17 (9.6)	64 (13.1)	175 (18.8)	334 (26.5)	498 (30.5)	609 (30.9)
中国	—	—	0	28 (3.0)	56 (4.4)	180 (11.0)	252 (12.8)
NIEs	6 (3.4)	7 (3.8)	38 (7.7)	82 (8.8)	146 (11.6)	180 (11.0)	196 (9.9)
韓国	2 (1.1)	2 (0.9)	12 (2.5)	39 (4.2)	81 (6.4)	119 (7.3)	136 (6.9)
香港	2 (1.2)	3 (1.6)	13 (2.6)	17 (1.8)	20 (1.6)	17 (1.0)	16 (0.8)
シンガポール	2 (1.1)	2 (1.4)	13 (2.6)	27 (2.9)	45 (3.6)	45 (2.7)	43 (2.2)
ASEAN [4]	11 (6.0)	10 (5.7)	23 (4.8)	65 (7.0)	132 (10.5)	139 (8.5)	161 (8.1)
タイ	1 (0.5)	1 (0.7)	4 (0.8)	13 (1.4)	25 (2.0)	26 (1.6)	33 (1.6)
マレーシア	4 (2.2)	4 (2.4)	9 (1.8)	27 (2.9)	48 (3.8)	47 (2.9)	56 (2.8)
フィリピン	1 (0.6)	1 (0.5)	2 (0.4)	6 (0.6)	32 (2.6)	25 (1.5)	21 (1.0)
インドネシア	5 (2.7)	4 (2.1)	8 (1.7)	19 (2.1)	27 (2.2)	41 (2.5)	52 (2.6)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注) とも表3と同じ。

参考表3 世界貿易マトリクスからみた香港の貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	197 [1.1]	302 [1.6]	821 [2.4]	1,736 [3.4]	2,020 [3.2]	2,895 [2.8]	2,959 [2.2]
米国	52 (26.2)	93 (30.8)	198 (24.1)	379 (21.8)	471 (23.3)	465 (16.1)	364 (12.3)
E U	49 (25.0)	41 (13.7)	154 (18.8)	265 (15.3)	316 (15.7)	421 (14.5)	391 (13.2)
日本	9 (4.6)	13 (4.2)	47 (5.7)	106 (6.1)	112 (5.5)	153 (5.3)	145 (4.9)
東アジア	39 (19.7)	106 (35.2)	294 (35.8)	735 (42.3)	869 (43.0)	1,533 (52.9)	1,656 (56.0)
中国	12 (6.3)	79 (26.0)	203 (24.8)	579 (33.3)	697 (34.5)	1,303 (45.0)	1,402 (47.4)
NIEs	13 (6.6)	17 (5.5)	58 (7.1)	94 (5.4)	105 (5.2)	139 (4.8)	143 (4.8)
韓国	2 (1.2)	5 (1.8)	19 (2.3)	28 (1.6)	38 (1.9)	62 (2.1)	70 (2.4)
台湾	2 (1.1)	3 (0.9)	13 (1.6)	17 (1.0)	20 (1.0)	17 (0.6)	16 (0.6)
シンガポール	9 (4.4)	29 (9.8)	26 (3.2)	49 (2.8)	47 (2.3)	60 (2.1)	56 (1.9)
ASEAN[4]	13 (6.8)	11 (3.6)	33 (4.0)	62 (3.6)	66 (3.3)	91 (3.1)	112 (3.8)
タイ	2 (1.1)	2 (0.7)	11 (1.3)	16 (0.9)	18 (0.9)	28 (1.0)	31 (1.0)
マレーシア	2 (0.9)	2 (0.7)	6 (0.7)	15 (0.9)	18 (0.9)	24 (0.8)	34 (1.1)
フィリピン	3 (1.7)	3 (1.0)	9 (1.0)	20 (1.2)	20 (1.0)	26 (0.9)	29 (1.0)
インドネシア	6 (3.1)	3 (1.1)	8 (0.9)	11 (0.6)	10 (0.5)	13 (0.4)	18 (0.6)
合計	221 [1.2]	295 [1.6]	814 [2.4]	1,695 [3.3]	1,830 [2.9]	2,946 [2.8]	4,036 [2.9]
米国	27 (12.2)	28 (9.5)	68 (8.4)	142 (8.4)	146 (8.0)	163 (5.5)	201 (5.0)
E U	31 (14.3)	37 (12.5)	89 (10.9)	210 (12.4)	190 (10.4)	256 (8.7)	288 (7.1)
日本	48 (21.7)	66 (22.3)	131 (16.1)	278 (16.4)	272 (14.9)	360 (12.2)	390 (9.7)
東アジア	91 (41.4)	137 (46.6)	458 (56.3)	923 (54.4)	1,088 (59.4)	2,076 (70.5)	2,951 (73.1)
中国	44 (19.7)	71 (24.3)	272 (33.4)	360 (21.2)	445 (24.3)	1,245 (42.3)	1,857 (46.0)
NIEs	39 (17.5)	56 (18.8)	158 (19.4)	469 (27.7)	529 (28.9)	643 (21.8)	855 (21.2)
韓国	8 (3.7)	16 (5.3)	38 (4.6)	107 (6.3)	107 (5.9)	121 (4.1)	162 (4.0)
台湾	15 (7.0)	25 (8.6)	86 (10.5)	261 (15.4)	313 (17.1)	306 (10.4)	380 (9.4)
シンガポール	15 (6.8)	15 (4.9)	34 (4.2)	101 (6.0)	108 (5.9)	216 (7.3)	313 (7.8)
ASEAN[4]	9 (4.2)	10 (3.5)	29 (3.6)	93 (5.5)	114 (6.2)	188 (6.4)	240 (6.0)
タイ	3 (1.5)	3 (1.0)	10 (1.3)	29 (1.7)	35 (1.9)	61 (2.1)	87 (2.2)
マレーシア	2 (1.1)	2 (0.7)	9 (1.1)	39 (2.3)	44 (2.4)	67 (2.3)	82 (2.0)
フィリピン	2 (0.9)	2 (0.6)	3 (0.4)	8 (0.5)	19 (1.0)	43 (1.5)	52 (1.3)
インドネシア	2 (0.7)	3 (1.2)	6 (0.8)	17 (1.0)	16 (0.8)	18 (0.6)	19 (0.5)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注)とも表3と同じ。

参考表4 世界貿易マトリクスからみたシンガポールの貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
輸出相手先							
合計	194 [1.1]	228 [1.2]	528 [1.6]	1,182 [2.3]	1,379 [2.2]	2,073 [2.0]	2,992 [2.2]
米国	24 (12.5)	48 (21.1)	112 (21.3)	216 (18.2)	239 (17.3)	239 (11.5)	266 (8.9)
E U	26 (13.5)	25 (11.1)	82 (15.6)	164 (13.9)	193 (14.0)	276 (13.3)	322 (10.8)
日本	16 (8.1)	21 (9.4)	46 (8.8)	92 (7.8)	104 (7.5)	125 (6.0)	144 (4.8)
東アジア	72 (37.0)	78 (34.1)	189 (35.7)	523 (44.3)	634 (45.9)	1,200 (57.9)	1,618 (54.1)
中国	3 (1.6)	3 (1.5)	8 (1.5)	28 (2.3)	54 (3.9)	198 (9.5)	289 (9.7)
NIEs	20 (10.2)	20 (8.7)	59 (11.1)	160 (13.6)	203 (14.7)	341 (16.4)	463 (15.5)
韓国	3 (1.5)	3 (1.2)	12 (2.2)	32 (2.7)	49 (3.6)	81 (3.9)	106 (3.5)
台湾	2 (1.0)	2 (1.1)	13 (2.4)	27 (2.3)	45 (3.3)	45 (2.1)	43 (1.4)
香港	15 (7.7)	15 (6.4)	34 (6.5)	101 (8.6)	108 (7.9)	216 (10.4)	313 (10.5)
A S E A N [4]	49 (25.1)	55 (23.9)	122 (23.1)	335 (28.4)	377 (27.3)	661 (31.9)	866 (29.0)
タイ	8 (4.4)	9 (4.2)	35 (6.6)	68 (5.8)	59 (4.3)	94 (4.5)	124 (4.1)
マレーシア	29 (15.0)	35 (15.5)	69 (13.0)	227 (19.2)	250 (18.2)	304 (14.7)	386 (12.9)
フィリピン	3 (1.4)	2 (1.0)	7 (1.3)	19 (1.6)	34 (2.5)	42 (2.0)	61 (2.0)
インドネシア	8 (4.4)	8 (3.3)	12 (2.2)	21 (1.8)	34 (2.5)	221 (10.7)	295 (9.8)
輸入相手先							
合計	258 [1.4]	256 [1.4]	556 [1.6]	1,142 [2.2]	1,271 [2.0]	1,803 [1.7]	2,340 [1.7]
米国	30 (11.8)	35 (13.6)	80 (14.4)	153 (13.4)	175 (13.8)	206 (11.4)	263 (11.2)
E U	27 (10.6)	31 (12.2)	77 (13.8)	141 (12.4)	144 (11.4)	214 (11.9)	283 (12.1)
日本	39 (15.2)	39 (15.2)	107 (19.3)	230 (20.2)	208 (16.4)	185 (10.3)	214 (9.2)
東アジア	77 (29.8)	97 (38.0)	192 (34.6)	472 (41.3)	553 (43.5)	825 (45.7)	1,117 (47.7)
中国	4 (1.6)	21 (8.1)	20 (3.6)	35 (3.1)	58 (4.5)	167 (9.3)	294 (12.6)
NIEs	17 (6.5)	22 (8.7)	66 (11.9)	160 (14.0)	158 (12.5)	214 (11.9)	278 (11.9)
韓国	3 (1.0)	5 (1.9)	18 (3.2)	67 (5.9)	56 (4.4)	78 (4.3)	116 (5.0)
台湾	5 (2.1)	9 (3.5)	22 (4.0)	44 (3.9)	55 (4.3)	76 (4.2)	105 (4.5)
香港	9 (3.3)	9 (3.3)	26 (4.7)	49 (4.3)	47 (3.7)	60 (3.3)	56 (2.4)
A S E A N [4]	56 (21.6)	54 (21.3)	106 (19.0)	276 (24.2)	337 (26.6)	443 (24.6)	544 (23.3)
タイ	5 (2.0)	6 (2.2)	17 (3.0)	79 (6.9)	60 (4.7)	75 (4.1)	95 (4.1)
マレーシア	25 (9.6)	30 (11.7)	68 (12.1)	150 (13.1)	181 (14.2)	249 (13.8)	263 (11.2)
フィリピン	1 (0.4)	3 (1.0)	2 (0.4)	10 (0.9)	31 (2.5)	38 (2.1)	53 (2.3)
インドネシア	25 (9.6)	16 (6.4)	19 (3.4)	38 (3.3)	66 (5.2)	82 (4.5)	133 (5.7)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注) とも表3と同じ。

参考表5 世界貿易マトリクスからみたタイの貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
輸出相手先							
合計	65 [0.4]	71 [0.4]	231 [0.7]	572 [1.1]	690 [1.1]	1,101 [1.1]	1,525 [1.1]
米国	8 (12.7)	14 (19.7)	52 (22.7)	101 (17.6)	147 (21.3)	170 (15.5)	193 (12.6)
E U	17 (26.6)	14 (19.9)	54 (23.3)	92 (16.1)	112 (16.2)	149 (13.5)	212 (13.9)
日本	10 (15.1)	10 (13.4)	40 (17.2)	95 (16.6)	102 (14.7)	150 (13.7)	181 (11.9)
東アジア	16 (25.2)	18 (25.8)	47 (20.4)	174 (30.4)	213 (30.8)	392 (35.6)	547 (35.9)
中国	1 (1.9)	3 (3.8)	3 (1.2)	16 (2.9)	28 (4.1)	91 (8.3)	148 (9.7)
NIEs	10 (14.8)	11 (15.7)	35 (15.3)	130 (22.7)	132 (19.2)	184 (16.7)	244 (16.0)
韓国	0 (0.8)	1 (1.9)	4 (1.7)	8 (1.4)	13 (1.8)	22 (2.0)	30 (1.9)
台湾	1 (1.2)	1 (1.9)	4 (1.7)	13 (2.3)	25 (3.6)	26 (2.3)	33 (2.1)
香港	3 (5.1)	3 (4.0)	10 (4.5)	29 (5.1)	35 (5.0)	61 (5.6)	87 (5.7)
シンガポール	5 (7.7)	6 (7.9)	17 (7.4)	79 (13.8)	60 (8.7)	75 (6.8)	95 (6.3)
ASEAN[4]	6 (8.5)	5 (6.3)	9 (3.8)	28 (4.9)	52 (7.6)	117 (10.6)	155 (10.1)
マレーシア	3 (4.5)	4 (5.0)	6 (2.5)	16 (2.7)	28 (4.1)	57 (5.2)	78 (5.1)
フィリピン	0 (0.4)	1 (0.7)	2 (0.7)	4 (0.7)	11 (1.6)	20 (1.9)	29 (1.9)
インドネシア	2 (3.6)	0 (0.6)	2 (0.7)	8 (1.4)	13 (1.9)	40 (3.6)	48 (3.1)
輸入相手先							
合計	86 [0.5]	80 [0.4]	301 [0.9]	657 [1.3]	576 [0.9]	1,065 [1.0]	1,309 [1.0]
米国	13 (14.6)	8 (10.6)	30 (9.9)	64 (9.7)	65 (11.3)	72 (6.8)	84 (6.4)
E U	12 (13.5)	13 (16.8)	49 (16.2)	112 (17.1)	60 (10.4)	98 (9.2)	109 (8.3)
日本	19 (22.3)	20 (25.7)	92 (30.4)	197 (30.0)	136 (23.7)	226 (21.2)	255 (19.5)
東アジア	20 (23.1)	23 (29.4)	92 (30.5)	201 (30.5)	203 (35.2)	391 (36.7)	517 (39.5)
中国	3 (3.6)	1 (1.5)	9 (2.8)	18 (2.7)	22 (3.9)	78 (7.3)	120 (9.2)
NIEs	14 (16.2)	15 (19.3)	70 (23.1)	139 (21.2)	123 (21.3)	195 (18.3)	255 (19.5)
韓国	2 (1.9)	1 (1.8)	10 (3.2)	24 (3.7)	20 (3.5)	35 (3.3)	49 (3.7)
台湾	2 (2.0)	2 (3.0)	14 (4.7)	31 (4.7)	26 (4.4)	37 (3.5)	52 (4.0)
香港	2 (2.5)	2 (2.6)	11 (3.6)	16 (2.5)	18 (3.2)	28 (2.7)	31 (2.4)
シンガポール	8 (9.8)	9 (11.9)	35 (11.6)	68 (10.4)	59 (10.2)	94 (8.9)	124 (9.5)
ASEAN[4]	3 (3.3)	7 (8.7)	14 (4.6)	44 (6.7)	58 (10.0)	118 (11.1)	142 (10.8)
マレーシア	2 (2.2)	5 (6.6)	10 (3.4)	29 (4.4)	36 (6.2)	74 (6.9)	86 (6.5)
フィリピン	1 (0.7)	1 (1.0)	2 (0.5)	8 (1.2)	12 (2.1)	16 (1.5)	20 (1.5)
インドネシア	0 (0.4)	1 (1.0)	2 (0.6)	7 (1.1)	10 (1.8)	28 (2.7)	37 (2.8)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注) とも表3と同じ。

参考表6 世界貿易マトリクスからみたマレーシアの貿易相手先

(単位：億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
合計	130 [0.7]	154 [0.8]	294 [0.9]	737 [1.5]	982 [1.5]	1,613 [1.6]	1,767 [1.3]
米国	21 (16.4)	20 (12.8)	50 (16.9)	153 (20.8)	202 (20.5)	315 (19.5)	280 (15.8)
EU	24 (18.3)	23 (14.8)	46 (15.5)	106 (14.4)	137 (14.0)	195 (12.1)	225 (12.7)
日本	30 (22.8)	38 (24.6)	45 (15.3)	92 (12.5)	128 (13.0)	134 (8.3)	160 (9.1)
東アジア	40 (30.9)	57 (36.7)	123 (41.9)	300 (40.6)	405 (41.3)	729 (45.2)	783 (44.3)
中国	2 (1.7)	2 (1.0)	6 (2.1)	19 (2.6)	30 (3.1)	183 (11.3)	153 (8.6)
NIEs	34 (26.0)	45 (29.4)	99 (33.8)	236 (32.0)	305 (31.1)	413 (25.6)	470 (26.6)
韓国	3 (2.0)	9 (5.9)	14 (4.6)	20 (2.7)	32 (3.3)	51 (3.1)	69 (3.9)
台湾	4 (3.0)	4 (2.8)	9 (3.1)	27 (3.6)	48 (4.9)	47 (2.9)	56 (3.2)
香港	2 (1.9)	2 (1.3)	9 (3.2)	39 (5.3)	44 (4.5)	67 (4.1)	82 (4.6)
シンガポール	25 (19.1)	30 (19.4)	68 (23.0)	150 (20.3)	181 (18.4)	249 (15.4)	263 (14.9)
ASEAN[4]	4 (3.2)	10 (6.2)	18 (6.0)	45 (6.1)	70 (7.1)	133 (8.3)	161 (9.1)
タイ	2 (1.5)	5 (3.4)	10 (3.5)	29 (3.9)	36 (3.6)	74 (4.6)	86 (4.8)
フィリピン	2 (1.5)	4 (2.4)	4 (1.3)	7 (0.9)	17 (1.8)	21 (1.3)	24 (1.4)
インドネシア	0 (0.3)	1 (0.4)	3 (1.2)	10 (1.3)	17 (1.7)	39 (2.4)	51 (2.9)
合計	108 [0.6]	117 [0.6]	254 [0.8]	760 [1.5]	820 [1.3]	1,104 [1.1]	1,484 [1.1]
米国	13 (12.4)	15 (13.1)	34 (13.5)	88 (11.6)	108 (13.2)	105 (9.5)	117 (7.9)
EU	17 (15.5)	14 (12.1)	35 (13.9)	104 (13.6)	78 (9.5)	115 (10.4)	156 (10.5)
日本	21 (19.2)	22 (18.6)	55 (21.8)	168 (22.1)	139 (16.9)	126 (11.4)	149 (10.1)
東アジア	41 (37.8)	52 (44.3)	106 (41.7)	342 (45.0)	427 (52.1)	647 (58.6)	871 (58.6)
中国	2 (1.7)	2 (1.6)	4 (1.5)	13 (1.7)	26 (3.1)	106 (9.6)	173 (11.7)
NIEs	34 (31.9)	44 (37.5)	93 (36.5)	301 (39.5)	340 (41.4)	421 (38.1)	539 (36.3)
韓国	2 (1.7)	4 (3.8)	7 (2.8)	30 (3.9)	35 (4.3)	51 (4.6)	65 (4.4)
台湾	2 (1.6)	2 (1.7)	11 (4.4)	29 (3.8)	36 (4.4)	41 (3.8)	54 (3.6)
香港	2 (1.6)	2 (1.9)	6 (2.3)	15 (2.0)	18 (2.2)	24 (2.2)	34 (2.3)
シンガポール	29 (27.0)	35 (30.1)	69 (27.1)	227 (29.8)	250 (30.5)	304 (27.5)	386 (26.0)
ASEAN[4]	4 (4.2)	6 (5.2)	10 (3.8)	29 (3.8)	62 (7.5)	120 (10.9)	158 (10.6)
タイ	3 (2.7)	4 (3.0)	6 (2.3)	16 (2.0)	28 (3.4)	57 (5.2)	78 (5.2)
フィリピン	1 (0.9)	2 (1.5)	1 (0.5)	3 (0.4)	14 (1.7)	22 (2.0)	25 (1.7)
インドネシア	1 (0.6)	1 (0.7)	3 (1.0)	10 (1.3)	20 (2.4)	41 (3.7)	55 (3.7)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注)とも表3と同じ。

参考表7 世界貿易マトリクスからみたフィリピンの貿易相手先

(単位：億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
輸出相手先							
合計	58 [0.3]	46 [0.2]	82 [0.2]	174 [0.3]	382 [0.6]	525 [0.5]	664 [0.5]
米国	16 (27.5)	17 (35.9)	31 (37.9)	62 (35.8)	114 (29.9)	85 (16.1)	89 (13.4)
EU	10 (18.0)	7 (14.5)	15 (18.5)	31 (17.7)	69 (18.1)	74 (14.1)	68 (10.2)
日本	15 (26.6)	9 (19.0)	16 (19.8)	27 (15.8)	56 (14.7)	72 (13.6)	78 (11.8)
東アジア	9 (15.9)	10 (20.8)	14 (17.3)	43 (24.6)	129 (33.7)	264 (50.4)	389 (58.5)
中国	0 (0.8)	1 (1.8)	1 (0.8)	2 (1.2)	7 (1.7)	102 (19.5)	196 (29.5)
NIEs	6 (10.6)	6 (13.1)	10 (12.4)	28 (16.2)	94 (24.7)	119 (22.6)	143 (21.5)
韓国	2 (3.5)	1 (1.6)	2 (2.8)	4 (2.5)	12 (3.1)	13 (2.4)	17 (2.5)
台湾	1 (1.8)	1 (2.0)	2 (2.6)	6 (3.2)	32 (8.5)	25 (4.8)	21 (3.1)
香港	2 (3.3)	2 (4.1)	3 (4.0)	8 (4.7)	19 (5.0)	42 (8.1)	52 (7.9)
シンガポール	1 (2.0)	3 (5.4)	2 (2.9)	10 (5.7)	31 (8.2)	38 (7.3)	53 (8.0)
ASEAN[4]	3 (4.6)	3 (6.0)	3 (4.2)	12 (7.1)	28 (7.2)	43 (8.2)	50 (7.5)
タイ	1 (1.1)	1 (1.8)	2 (1.9)	8 (4.6)	12 (3.2)	16 (3.0)	20 (3.0)
マレーシア	1 (1.8)	2 (3.8)	1 (1.5)	3 (1.8)	14 (3.6)	22 (4.2)	25 (3.8)
インドネシア	1 (1.8)	0 (0.4)	1 (0.7)	1 (0.7)	2 (0.5)	5 (1.0)	5 (0.7)
輸入相手先							
合計	82 [0.4]	57 [0.3]	132 [0.4]	292 [0.6]	457 [0.7]	520 [0.5]	653 [0.5]
米国	20 (24.4)	14 (24.0)	25 (18.7)	53 (18.1)	87 (19.0)	69 (13.3)	77 (11.8)
EU	9 (11.3)	5 (9.0)	17 (12.5)	31 (10.7)	41 (8.9)	44 (8.5)	54 (8.3)
日本	17 (20.7)	9 (16.5)	25 (19.0)	71 (24.3)	103 (22.4)	92 (17.6)	95 (14.5)
東アジア	16 (19.7)	19 (33.8)	38 (28.5)	98 (33.4)	169 (36.9)	247 (47.5)	320 (48.9)
中国	3 (3.2)	3 (5.5)	2 (1.5)	10 (3.5)	15 (3.2)	47 (9.0)	74 (12.9)
NIEs	9 (11.6)	10 (17.6)	28 (21.5)	71 (24.2)	118 (25.8)	143 (27.6)	182 (27.9)
韓国	2 (1.9)	2 (4.2)	5 (3.8)	15 (5.1)	34 (7.3)	33 (6.4)	43 (6.5)
台湾	2 (2.4)	2 (4.2)	8 (6.1)	17 (5.7)	30 (6.6)	42 (8.1)	49 (7.5)
香港	3 (4.0)	3 (5.4)	9 (6.5)	20 (6.9)	20 (4.4)	26 (5.0)	29 (4.4)
シンガポール	3 (3.3)	2 (3.8)	7 (5.1)	19 (6.6)	34 (7.4)	42 (8.0)	61 (9.4)
ASEAN[4]	4 (4.9)	6 (10.8)	7 (5.5)	17 (5.7)	36 (7.9)	57 (10.9)	63 (9.7)
タイ	0 (0.3)	1 (0.9)	2 (1.3)	4 (1.4)	11 (2.4)	20 (3.9)	29 (4.4)
マレーシア	2 (2.4)	4 (6.4)	4 (3.0)	7 (2.2)	17 (3.8)	21 (4.0)	24 (3.7)
インドネシア	2 (2.4)	2 (3.5)	2 (1.2)	6 (2.0)	8 (1.8)	16 (3.0)	10 (1.6)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所、注)とも表3と同じ。

参考表8 世界貿易マトリクスからみたインドネシアの貿易相手先

(単位: 億ドル、%)

年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
輸出相手先							
合計	219 [1.2]	186 [1.0]	257 [0.8]	454 [0.9]	621 [1.0]	962 [0.9]	1,265 [0.9]
米国	43 (19.6)	40 (21.7)	34 (13.1)	63 (13.9)	85 (13.7)	118 (12.2)	138 (10.9)
EU	15 (6.7)	12 (6.5)	31 (12.2)	69 (15.2)	89 (14.3)	125 (13.0)	158 (12.5)
日本	108 (49.3)	86 (46.2)	109 (42.5)	123 (27.0)	144 (23.2)	189 (19.6)	235 (18.6)
東アジア	37 (16.9)	34 (18.5)	61 (23.9)	143 (31.5)	217 (35.0)	368 (38.2)	500 (39.5)
中国		1 (0.5)	8 (3.2)	17 (3.8)	28 (4.5)	77 (8.0)	111 (8.8)
NIEs	34 (15.6)	30 (16.1)	47 (18.4)	103 (22.6)	151 (24.3)	206 (21.4)	288 (22.8)
韓国	3 (1.3)	7 (3.5)	14 (5.3)	29 (6.4)	43 (7.0)	66 (6.8)	83 (6.6)
台湾	5 (2.2)	4 (2.0)	8 (3.2)	19 (4.3)	27 (4.4)	41 (4.2)	52 (4.1)
香港	2 (0.7)	3 (1.9)	6 (2.4)	17 (3.6)	16 (2.5)	18 (1.8)	19 (1.5)
シンガポール	25 (11.3)	16 (8.7)	19 (7.4)	38 (8.3)	66 (10.6)	82 (8.5)	133 (10.5)
ASEAN[4]	3 (1.3)	4 (1.9)	6 (2.3)	23 (5.0)	38 (6.1)	85 (8.8)	102 (8.0)
タイ	0 (0.2)	1 (0.4)	2 (0.7)	7 (1.5)	10 (1.7)	28 (3.0)	37 (2.9)
マレーシア	1 (0.3)	1 (0.4)	3 (1.0)	10 (2.2)	20 (3.2)	41 (4.3)	55 (4.3)
フィリピン	2 (0.8)	2 (1.1)	2 (0.6)	6 (1.3)	8 (1.3)	16 (1.6)	10 (0.8)
輸入相手先							
合計	110 [0.6]	78 [0.4]	178 [0.5]	361 [0.7]	341 [0.5]	593 [0.6]	1,041 [0.8]
米国	15 (14.0)	8 (10.2)	19 (10.7)	34 (9.4)	25 (7.3)	31 (5.1)	42 (4.1)
EU	19 (17.2)	19 (23.9)	39 (21.8)	78 (21.5)	41 (12.0)	59 (10.0)	75 (7.2)
日本	35 (31.5)	22 (28.2)	51 (28.5)	100 (27.6)	76 (22.2)	93 (15.7)	89 (8.6)
東アジア	27 (24.5)	18 (23.4)	52 (29.2)	114 (31.5)	159 (46.6)	472 (79.5)	631 (60.6)
中国	0 (0.2)	1 (1.6)	4 (2.3)	14 (4.0)	31 (9.0)	84 (14.1)	127 (12.2)
NIEs	23 (20.9)	16 (20.2)	42 (23.8)	80 (22.2)	96 (28.1)	304 (51.2)	400 (38.5)
韓国	4 (3.3)	2 (2.5)	11 (6.1)	30 (8.2)	35 (10.3)	47 (7.9)	58 (5.6)
台湾	5 (4.3)	3 (3.6)	12 (7.0)	19 (5.2)	17 (5.1)	23 (3.9)	29 (2.8)
香港	6 (5.6)	3 (4.4)	8 (4.2)	11 (2.9)	10 (2.8)	13 (2.1)	18 (1.8)
シンガポール	8 (7.6)	8 (9.7)	12 (6.5)	21 (5.9)	34 (10.0)	221 (37.3)	295 (28.3)
ASEAN[4]	4 (3.4)	1 (1.6)	6 (3.1)	19 (5.3)	32 (9.5)	84 (14.2)	104 (10.0)
タイ	2 (2.1)	0 (0.6)	2 (0.9)	8 (2.2)	13 (3.9)	40 (6.7)	48 (4.6)
マレーシア	0 (0.3)	1 (0.8)	3 (1.9)	10 (2.7)	17 (5.0)	39 (6.6)	51 (4.9)
フィリピン	1 (1.0)	0 (0.2)	1 (0.3)	1 (0.3)	2 (0.5)	5 (0.9)	5 (0.5)
世界の輸出額	18,323	18,741	33,816	50,780	63,887	103,941	137,477

出所)・注)とも表3と同じ。

注) 1. ( )内の数値はそれぞれ輸出入に占める構成比、[ ]内の数値は世界の輸出額に占める比率。

参考表9 中国の対台湾貿易

(単位: 100 万米ドル、%)

年	2000			2011			
輸出額		5,040	(100.0)		35,112	(100.0)	
上位輸出品目	1位	(85) 電気機器	1,088	(21.6)	(85) 電気機器	11,578	(33.0)
	2位	(84) ボイラー・機械類	655	(13.0)	(84) ボイラー・機械類	4,566	(13.0)
	3位	(72) 鉄鋼	478	(9.5)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	2,305	(6.6)
	4位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	247	(4.9)	(72) 鉄鋼	2,255	(6.4)
	5位	(86) 鉄道・軌道用機関車・車両	190	(3.8)	(38) 各種化学工業品	1,678	(4.8)
	6位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	143	(2.8)	(29) 有機化学	1,631	(4.6)
	7位	(61) アパレル(メリヤス類)	138	(2.7)	(39) プラスチック	872	(2.5)
	8位	(29) 有機化学	131	(2.6)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	679	(1.9)
	9位	(73) 鉄鋼製品	122	(2.4)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	585	(1.7)
	10位	(94) 家具・寝具・マットレス	114	(2.3)	(73) 鉄鋼製品	567	(1.6)
輸入額		25,494	(100.0)		124,920	(100.0)	
上位輸入品目	1位	(85) 電気機器	6,413	(25.2)	(85) 電気機器	57,049	(45.7)
	2位	(84) ボイラー・機械類	4,233	(16.6)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	19,071	(15.3)
	3位	(39) プラスチック	3,572	(14.0)	(39) プラスチック	10,543	(8.4)
	4位	(72) 鉄鋼	1,871	(7.3)	(84) ボイラー・機械類	9,890	(7.9)
	5位	(54) 人造長繊維・同織物	1,268	(5.0)	(29) 有機化学	9,312	(7.5)
	6位	(74) 銅・同製品	730	(2.9)	(74) 銅・同製品	2,582	(2.1)
	7位	(29) 有機化学	583	(2.3)	(72) 鉄鋼	2,427	(1.9)
	8位	(55) 人造短繊維・同織物	582	(2.3)	(38) 各種化学工業品	1,552	(1.2)
	9位	(41) 皮革	516	(2.0)	(70) ガラス・同製品	1,481	(1.2)
	10位	(90) 光学・映写・計量・医療器具	493	(1.9)	(54) 人造長繊維・同織物	1,195	(1.0)
上位黒字品目	1位	(86) 鉄道・軌道用機関車・車両	189		(61) アパレル(メリヤス類)	466	
	2位	(27) 鉱物燃料・鉱物油	136		(03) 魚・甲殻類・軟体動物など	442	
	3位	(61) アパレル(メリヤス類)	128		(87) 鉄道・軌道用以外の車両	283	
	4位	(62) アパレル(メリヤス類以外)	118		(16) 肉・魚・甲殻類などの調製品	274	
	5位	(94) 家具・寝具・マットレス	111		(86) 鉄道・軌道用機関車・車両	270	
	6位	(79) 亜鉛・同製品	71		(94) 家具・寝具・マットレス	263	
	7位	(44) 木材・同製品	48		(62) アパレル(メリヤス類を除く)	232	
上位赤字品目	1位	(85) 電気機器	△ 5,325		(85) 電気機器	△ 45,470	
	2位	(84) ボイラー・機械類	△ 3,578		(90) 光学・映写・計量・医療器具	△ 16,767	
	3位	(39) プラスチック	△ 3,469		(39) プラスチック	△ 9,671	
	4位	(72) 鉄鋼	△ 1,392		(29) 有機化学	△ 7,681	
	5位	(54) 人造長繊維・同織物	△ 1,262		(84) ボイラー・機械類	△ 5,323	
	6位	(74) 銅・同製品	△ 645		(74) 銅・同製品	△ 2,245	
	7位	(55) 人造短繊維・同織物	△ 548		(70) ガラス・同製品	△ 1,307	

出所)・注) とも表8と同じ。



参考表10 中国の対タイ貿易

(単位：100万米ドル、%)

年	2000		2011	
輸出額		2,243 (100.0)		25,697 (100.0)
上位輸出品目	1位	(84) ボイラー・機械類 498 (22.2)	(84) ボイラー・機械類	5,193 (20.2)
	2位	(85) 電気機器 416 (18.5)	(85) 電気機器	4,953 (19.3)
	3位	(27) 鉱物燃料・鉱物油 158 (7.0)	(72) 鉄鋼	1,653 (6.4)
	4位	(72) 鉄鋼 141 (6.3)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	1,444 (5.6)
	5位	(28) 無機化学・貴金属等化合物 87 (3.9)	(29) 有機化学	915 (3.6)
	6位	(55) 人造短繊維・同織物 84 (3.7)	(39) プラスチック	782 (3.0)
	7位	(29) 有機化学 80 (3.6)	(73) 鉄鋼製品	765 (3.0)
	8位	(52) 綿・綿織物 77 (3.4)	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	702 (2.7)
	9位	(88) 航空機 63 (2.8)	(94) 家具・寝具・マットレス	590 (2.3)
	10位	(38) 各種化学工業品 45 (2.0)	(28) 無機化学・貴金属等化合物	547 (2.1)
輸入額		4,381 (100.0)		39,040 (100.0)
上位輸入品目	1位	(84) ボイラー・機械類 853 (19.5)	(84) ボイラー・機械類	10,459 (26.8)
	2位	(85) 電気機器 816 (18.6)	(85) 電気機器	7,837 (20.1)
	3位	(39) プラスチック 641 (14.6)	(40) ゴム・同製品	6,754 (17.3)
	4位	(40) ゴム・同製品 437 (10.0)	(39) プラスチック	3,312 (8.5)
	5位	(27) 鉱物燃料・鉱物油 383 (8.7)	(29) 有機化学	2,384 (6.1)
	6位	(72) 鉄鋼 134 (3.1)	(27) 鉱物燃料・鉱物油	1,163 (3.0)
	7位	(48) 紙・パルプ 116 (2.6)	(07) 食用野菜	958 (2.5)
	8位	(10) 穀物 112 (2.6)	(44) 木材・同製品	867 (2.2)
	9位	(44) 木材・同製品 103 (2.4)	(08) 食用果実・ナッツ	749 (1.9)
	10位	(29) 有機化学 88 (2.0)	(90) 光学・映写・計量・医療器具	616 (1.6)
上位黒字品目	1位	(28) 無機化学・貴金属等化合物 81	(72) 鉄鋼	1,621
	2位	(88) 航空機 63	(90) 光学・映写・計量・医療器具	829
	3位	(52) 綿・綿織物 43	(73) 鉄鋼製品	634
	4位	(38) 各種化学工業品 36	(87) 鉄道・軌道用以外の車両	568
	5位	(55) 人造短繊維・同織物 23	(94) 家具・寝具・マットレス	561
	6位	(23) 食品工業残留物・調整飼料 20	(28) 無機化学・貴金属等化合物	523
	7位	(32) 染料・顔料等の着色料 19	(76) アルミニウム・同製品	332
上位赤字品目	1位	(39) プラスチック △ 619	(40) ゴム・同製品	△ 6,499
	2位	(40) ゴム・同製品 △ 431	(84) ボイラー・機械類	△ 5,266
	3位	(85) 電気機器 △ 400	(85) 電気機器	△ 2,884
	4位	(84) ボイラー・機械類 △ 356	(39) プラスチック	△ 2,529
	5位	(27) 鉱物燃料・鉱物油 △ 225	(29) 有機化学	△ 1,468
	6位	(48) 紙・パルプ △ 106	(27) 鉱物燃料・鉱物油	△ 990
	7位	(44) 木材・同製品 △ 98	(44) 木材・同製品	△ 688

出所)、注) とも表8と同じ。